

# 看護学科

<看護学科科目>

区分		科目名	頁
専門基礎分野	身体のしくみ	人体形態学	1
		人体機能学	2
		生化学	3
		栄養学	4
		病理学	5
		臨床治療学Ⅰ	6
		臨床治療学Ⅱ	7
		臨床治療学Ⅲ	8
		感染微生物学	9
		薬理学	10
		臨床薬理学	11
	人間と健康	生涯発達論	12
		家族社会学	13
		人間工学	14
		カウンセリング・コミュニケーション論	15
	人間の健康と社会生活	保健医療福祉連携論	16
		社会福祉概論	17
		地域との協働Ⅰ	18
		地域との協働Ⅱ	19
		地域との協働Ⅲ	20
		公衆衛生学	21
		人間関係論	22
		疫学	23
		保健医療福祉行政論	24
		福祉環境論	25
		人権と法	26
		ソーシャルインクルージョン論	27
		医療福祉論	28
専門分野	基礎看護学	看護学概論	29
		看護技術論	30
		看護共通技術Ⅰ	31
		看護共通技術Ⅱ	32
		基礎看護技術Ⅰ	33
		基礎看護技術Ⅱ	34
		基礎看護技術Ⅲ	35
		基礎看護技術Ⅳ	36
		ヘルスアセスメント	37
	看護学成人	成人看護学概論	38
		成人看護活動論Ⅰ	39
		成人看護活動論Ⅱ	40
	老年看護学	老年看護学概論	41
		老年看護活動論Ⅰ	42

<看護学科科目>

区分	科目名	頁	
専門分野	老年看護学 老年看護活動論Ⅱ	43	
	看護学小児 小児看護学概論	44	
		小児看護活動論Ⅰ	45
		小児看護活動論Ⅱ	46
	看護学母性 母性看護学概論	47	
		母性看護活動論Ⅰ	48
		母性看護活動論Ⅱ	49
	看護学精神 精神看護学概論	50	
		精神看護活動論Ⅰ	51
		精神看護活動論Ⅱ	52
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	53
		基礎看護学実習Ⅱ	54
		成人看護学実習Ⅰ	55
		成人看護学実習Ⅱ	56
		老年看護学実習	57
		小児看護学実習	58
		母性看護学実習	59
		精神看護学実習	60
	統合科目	在宅看護概論	61
		在宅看護活動論Ⅰ	62
		在宅看護活動論Ⅱ	63
		在宅看護実習	64
		看護倫理	65
		看護マネジメント論	66
		看護教育学	67
		災害看護学	68
国際看護学		69	
看護情報学		70	
統合実習		71	
看護統合演習		72	
看護研究の基礎		73	
卒業研究		74	
公衆衛生看護学概論	75		
保健指導論	76		

<看護学科科目> 保健師課程

区別	科目名	頁	
専門分野	統合科目	地区活動論Ⅰ※	77
		地区活動論Ⅱ※	78
		対象別保健指導論Ⅰ※	79
		対象別保健指導論Ⅱ※	80
		対象別保健指導論Ⅲ	81
		対象別保健指導論Ⅳ	82
		継続訪問実習	83
		公衆衛生看護学実習	84

※印の科目を3年次に履修していることにより保健師選考履修者試験の受験資格が得られます。(履修人数15名)

保健師課程選考履修者試験で合格することにより4年次から保健師課程に必要な科目の履修が認められます。

科 目 名	人体形態学				
担 当 教 員 名	山本 達朗				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	人体形態学は、人体の肉眼解剖レベル（マクロレベル）の基本的構造を学習する科目であり、医学的知識を習得する上でその基礎となる重要な科目である。本科目では、人体を構成する各パーツの構造や位置を理解するだけでなく、各パーツの発生（人体の発生）や、それらを有機的に統合する神経系（特に中枢神経系）についても理解を深め、人体に関する形態学的基礎を理解することを目的とする。				
授 業 の 概 要	人体形態学の講義は、主に系統解剖学、発生学および神経解剖学により構成される。系統解剖学では、人体をいくつかの系統に分けて、主に総論的な内容について講義する。発生学では、骨や筋の発生および各種器官の発生について、その概要を講義する。神経解剖学では、神経組織学、神経系の発生および神経回路について講義する。				
授 業 の 計 画	1 解剖学総論 2 発生学（初期発生） 3 組織学総論 4 組織学各論 5 骨学各論 6 骨学各論 7 筋学総論 8 筋学各論 9 筋学各論 10 循環器系総論 11 循環器系各論 12 循環器系各論 13 神経系総論 14 神経系各論 15 人体形態学前半まとめ 16 呼吸器系総論 17 呼吸器系各論 18 消化器系総論 19 消化器系各論 20 泌尿器系総論 21 泌尿器系各論 22 生殖器系総論 23 生殖器系各論 24 感覚器系総論 25 感覚器系各論 26 内分泌系総論・各論 27 神経解剖学 28 神経解剖学 29 神経解剖学 30 人体形態学後半まとめ				
授 業 の 留 意 点	系統解剖学においては、各論的内容に関して詳細に講義するだけの時間がないため、主に総論的な内容に絞って講義を展開する。教科書やアトラスなどを参考にして、日々の復習などを行い、各論的内容を含めた知識の習得に努力していただきたい。				
学 生 に 対 す る 価	定期試験（100点）で評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①（坂井建雄、岡田隆夫著：医学書院）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	人体機能学				
担 当 教 員 名	八幡 剛浩				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	通 年	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	本科目は看護の対象である人間の生きるための仕組みを学ぶものである。人体形態学と合わせて、看護の専門科目を学ぶ上で前提となる基礎的知識を得て説明出来る様にする。				
授 業 の 概 要	人体機能学は、生命を維持するための原理について学ぶ重要なものである。人体を構成する呼吸系、循環系、消化系、泌尿系、運動系などの器官系は互いに協力し合って、生命を維持するための重要な役割を果たしている。本講義では各器官系の機能とその働きの調節の仕組みを理解し、さらに生命を維持するためにこれら器官がどのように連携しているかを学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 生理学とは？ 器官系、ホメオスターシス</li> <li>2 体液：細胞内液と細胞外液、組織液の役割</li> <li>3-6 血液：血液細胞、免疫、血漿、血液凝固、血液型</li> <li>7-9 循環：心臓、血管、血液の循環、特殊循環、リンパ循環</li> <li>10-11 呼吸：呼吸のプロセス、呼吸の調節</li> <li>12-14 消化・吸収：消化管の運動、消化液、消化液の分泌調節、吸収、肝臓</li> <li>15-17 腎臓：尿産生の仕組み、浸透圧と pH の調節、排尿</li> <li>18-19 代謝と体温：代謝、体温、体温調節</li> <li>20-23 内分泌：ホルモンの定義、作用機序、分泌調節機構、神経内分泌、脳下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、睪臓、性腺</li> <li>24-26 神経：運動機能、内蔵機能、高次活動、意識と睡眠</li> <li>27 筋肉の活動</li> <li>28-30 感覚：体性感覚、内臓感覚、視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚</li> </ul>				
授 業 の 留 意 点	人体機能学は専門科目を学ぶ上でのベースを学ぶものである。一度の講義で内容を全て理解することは難しいから講義予定範囲を読んで不明な点を確認しておく事、更に講義後に復習して内容を確認する事が大事である。不明な点は質問してしっかりと理解することが必要である。				
学 生 に 対 す る 価 値	ペーパーテストまたは口頭試問によって判定する。出題は、文章の誤りを正す形式(80 点)と記述形式(20 点)を併用する。判定は、前期と後期の試験結果を平均し、履修規定の基準に従って行う。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	吉岡利忠・内田勝雄編『生体機能学テキスト改訂版』(中央法規出版 2007 年) (併せて、人体形態学の教科書を使用する。)				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	堺 章『目でみるからだのメカニズム』(医学書院)、高橋長雄監修『からだの地図帳』(講談社) 内田さえ 他編『人体の構造と機能 第5版』(医歯薬出版、2019)				

科目名	生化学				
担当教員名	田邊 宏基				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	
学習到達目標	<p>身体を構成している物質の構造と体内で行われている主要な代謝を分子レベルで理解することを目標とする。この目標を達成するため、以下の点に心がける。</p> <p>①身体はどのような分子によって作られているのかを常に意識する。  ②食物が自分の体に必要なものに変換される過程を化学的に考える。  ③これらの変換を司る酵素、遺伝子および細胞内小器官の動きをイメージする。</p>				
授業の概要	<p>講義はプリント中心で行う。糖質、脂質、たんぱく質、核酸の構造、特性、代謝について詳細に解説する。また、これらの代謝の際にビタミンやミネラルが果たす役割についても解説する。さらに、これらの代謝が正常時・異常時にどのように変化し、何に影響を与えるのかについても解説していく。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生化学の概要</li> <li>2 細胞および細胞内小器官</li> <li>3 たんぱく質の構造と機能</li> <li>4 酵素と代謝</li> <li>5 高エネルギーリン酸化合物の生体での利用</li> <li>6 糖質の代謝 (解糖系、TCA 回路、電子伝達系)</li> <li>7 糖質の代謝 (糖新生、ペントースリン酸経路)</li> <li>8 脂質の代謝 (<math>\beta</math> 酸化、脂肪酸合成、ケトン体代謝)</li> <li>9 脂質の代謝 (コレステロール代謝、リン脂質代謝、体内輸送)</li> <li>10 たんぱく質・アミノ酸の代謝 (アミノ基転移、脱アミノ反応)</li> <li>11 たんぱく質・アミノ酸の代謝 (尿素サイクル)</li> <li>12 遺伝情報とたんぱく質合成 (プリンおよびピリミジンの合成と分解)</li> <li>13 遺伝情報とたんぱく質合成 (転写および翻訳)</li> <li>14 代謝におけるビタミンとミネラルの役割</li> <li>15 疾患の生化学的な理解</li> </ol>				
授業の留意点	<p>化学、生物学の復習をしっかり行い、それらとの関連を考えながら履修する。疑問を残しては次の知識が積み上がらないため、疑問点はその場での質問もしくは講義後の質問でもよいので毎回解消する。</p>				
学生に対する評価	<p>試験(100点)により評価する。必要によりレポートの提出を求めることがある。</p>				
教科書 (購入必須)	<p>「わかりやすい生化学第4版 疾病と代謝・栄養の理解のために」ニューヴェルヒロカワ 2008年</p>				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	栄養学				
担 当 教 員 名	西條 祥子				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	看:1 社:2	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	看護：必修 社会福祉：選択	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	1. 栄養と健康、栄養と疾病の発生・治療・予防との関わりについて説明できる。 2. 疾病の概要、栄養食事療法の要点について説明できる。 3. チーム医療における栄養管理の進め方と各職種の役割について説明できる。				
授 業 の 概 要	1. 人間にとっての栄養の意義、栄養と健康の関わりについて学ぶ。 2. 栄養素の種類と働き、食物の消化と栄養素の吸収・代謝について学ぶ。 3. ライフステージ別の特徴と栄養について学ぶ。 4. 栄養状態の評価・判定方法を学ぶ。 5. 種々の疾病の要因、病態、診断、治療・予防、栄養食事療法について学ぶ。 6. チーム医療と栄養管理について学ぶ。				
授 業 の 計 画	1 食べ物と栄養素 2 からだの仕組み 消化吸収と栄養素の働き（1）タンパク質、脂質 3 消化吸収と栄養素の働き（2）糖質、ビタミン、ミネラル、水、食物繊維 4 ライフステージと栄養、エネルギー代謝 5 食事摂取基準、健康の維持増進と栄養 6 栄養アセスメント 7 栄養素補給方法 8 疾病と個別対応（1）消化器系疾患の栄養管理 9 疾病と個別対応（2）肝疾患、胆嚢・胆道、膵臓疾患の栄養管理 10 疾病と個別対応（3）代謝および内分泌系疾患 ①肥満、糖尿病の栄養管理 11 疾病と個別対応 代謝および内分泌系疾患 ②脂質異常症、高血圧症等の栄養管理 12 疾病と個別対応（4）腎疾患の栄養管理 13 疾病と個別対応（5）貧血、先天性代謝異常症、食べ物アレルギー等の栄養管理 14 疾病と個別対応（6）神経性食欲不振症、骨粗鬆症、嚥下障害等の栄養管理 15 栄養サポート				
授 業 の 留 意 点	【準備学習：予習・復習の内容、分量】 ・1回の授業あたり1～2時間程度の予習・復習を要する。 ・予習：教科書の該当ページを読んでおく。 ・復習：教科書の該当ページおよび授業時の配付資料を読み返す。 各章末の演習課題、国家試験既出問題を解く。 【その他の留意点】 ・栄養学で学んだことを日常生活にも生かせるようにする。				
学 生 に 対 す る 価 評	小テスト（2回）、定期筆記試験により結果を総合的に評価する。 小テスト50点、定期筆記試験50点				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	よくわかる専門基礎講座「栄養学」津田とみ（著）金原出版株式会社 必要に応じ資料を配布する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					



科 目 名	病理学				
担 当 教 員 名	佐古 和廣				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	病気の原因、発生機序、発症・進展の過程や患者に対する影響について理解し、臨床の現場でその知識を応用して、科学的根拠に基づく看護が出来ることを目指す。				
授 業 の 概 要	<p>いろいろな疾病は、細胞障害、感染症・炎症・免疫、循環障害、遺伝子異常、腫瘍、代謝異常、環境因子の複合的な関与、蓄積により引き起こされる。総論では、疾病の成り立ちを臓器の違いを超えて解説する。各論では、臓器別に各種疾病の病因・症状・治療について臓器特異性の視点から解説する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 総論 1：病理学とは何か、組織・細胞の障害と修復</li> <li>2 総論 2：循環障害</li> <li>3 総論 3：炎症と免疫、移植と再生医療</li> <li>4 総論 4：感染症</li> <li>5 総論 5：代謝障害</li> <li>6 総論 6：先天異常と遺伝子異常、老化と死</li> <li>7 総論 7：腫瘍</li> <li>8 各論 1：循環器疾患（先天性、心不全、虚血性、心筋症、心内膜と血管の疾患）</li> <li>9 各論 2：血液・造血器系の疾患</li> <li>10 各論 3：呼吸器系疾患（鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺、胸膜と縦隔の疾患）</li> <li>11 各論 4：消化器系疾患（口腔・食道、胃、腸、腹膜、肝臓、胆管、胆のう、膵臓の疾患）</li> <li>12 各論 5：腎、泌尿器、生殖器および乳腺の疾患</li> <li>13 各論 6：内分泌系の疾患</li> <li>14 各論 7：脳、神経系の疾患</li> <li>15 各論 8：骨、関節、筋肉系の疾患、眼・耳・皮膚の疾患</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	講義を受ける前に各臓器の解剖・生理を復習しておく。講義の要点を講義資料で把握し、教科書で補足する。				
学 生 に 対 す る 価 値	試験（70点）と講義時のミニテスト・リアクションペーパー（30点）				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	病理学「疾病のなりたちと回復の促進 1」医学書院				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	臨床治療学 I				
担 当 教 員 名	長谷部 佳子・南山 祥子・本吉 美也子・中澤 洋子				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	本講義では、器官系統別[消化器系、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、血液・造血器系、脳神経系、骨関節筋肉系、免疫系、内分泌・代謝系]の高頻度に見られる疾患について、その原因・病態・診断のための検査・治療について理解し、ケアにつなげるための基礎的知識を学ぶことを目標とする。				
授 業 の 概 要	健康障害をもつ患者を看護するためには、健康障害についてアセスメントを行うことが必要である。すなわち、健康障害を引き起こしている疾患を理解し、その疾患が患者の身体的、精神的、社会的側面にどのような影響を与えているかを分析・判断することが看護職には求められている。ここでは器官系統別[消化器系、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、血液・造血器系、脳神経系、骨関節筋肉系、免疫系、内分泌・代謝系]の疾患についてその原因・病態・診断のための検査・治療について学ぶ。治療は、内科的治療法と外科的治療法について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<p>1-6 消化器疾患（主に食道がん、胃がん、大腸がん、イレウス、クローン病、胃・十二指腸潰瘍、膵炎、肝炎、食道静脈瘤、肝がん、肝硬変）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>7-10 呼吸器疾患（主に肺がん、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、呼吸不全）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>11-14 循環器疾患（主に虚血性心疾患、心不全、大血管疾患、末梢血管疾患）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>15-17 腎・泌尿器疾患（主に腎不全、腎腫瘍、膀胱がん、前立腺がん、前立腺肥大症）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>18 血液・造血器疾患（主に白血病、悪性リンパ腫、再生不良性貧血）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>19-22 脳神経疾患（主に脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、神経難病）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>23-26 骨関節筋肉疾患(主に骨折、椎間板ヘルニア、脊髄損傷、変形性関節症)の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>27-28 内分泌・代謝疾患（主に糖尿病、高脂血症、高尿酸血症）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>29-30 免疫疾患（主に関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、AIDS）の原因・病態・診断のための検査・治療</p>				
授 業 の 留 意 点	すでに履修済みの人体形態学、人体機能学を復習しておくことが望ましい。				
学 生 に 対 す る 価 値	<p>&lt;試験の採点と再試験について&gt;</p> <p>1) 循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、脳神経疾患、骨関節筋肉疾患、腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患、血液・造血器疾患、免疫疾患の9つの領域を3つのグループ分けて3回の試験を行う。各グループは100点満点とし、1つのグループで60点未満の場合はそのグループの領域分が再試となる。</p> <p>再試験となった場合は、再試験の点数が60点以上でも「60点」として計算される。</p> <p>小テストの点数は、領域①では循環器10点、呼吸器10点、領域③では消化器15点満点で換算する。</p> <p>2) 「臨床治療学 I」の成績評価は、300点満点で判定をする（3つの試験の合計点）。</p> <p>例：270～300点⇒秀、240～269点⇒優、210～239点⇒良、180～209点⇒可、180点未満⇒不可</p> <p>1つのグループでも再試験となった場合は、合格しても最終評価は「可」となる。</p>				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕循環器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕血液・造血器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕消化器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕内分泌・代謝、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕脳神経、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕腎・泌尿器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕運動器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔11〕アレルギー 膠原病 感染症、医学書院</p> <p>今日の治療薬 2018 解説と便覧、南江堂</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論、医学書院</p>				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					

科 目 名	臨床治療学Ⅱ				
担 当 教 員 名	北村 晋逸				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	本講義は、成人期に高頻度に見られる疾患の原因・病態・診断・治療についての基礎的知識を学ぶことを目標とする。				
授 業 の 概 要	健康障害をもつ患者を看護するためには、健康障害についてアセスメントを行う必要がある。すなわち、健康障害を引き起こしている疾患を理解し、その疾患が患者の身体的、精神的、社会的側面にどのような影響を与えているかを分析・判断することが看護職に求められている。ここでは、感覚器系・女性生殖器系で高頻度に見られる疾患についてその原因・病態・診断・治療について学ぶ。				
授 業 の 計 画	1-2 主な皮膚疾患の原因・病態・診断・治療 3-4 主な眼疾患の原因・病態・診断・治療 5-6 主な歯・口腔疾患の原因・病態・診断・治療 7-8 主な耳鼻咽喉疾患の原因・病態・診断・治療 9-15 主な女性生殖器系疾患の病因・病態・診断・治療				
授 業 の 留 意 点	すでに履修済みの人体形態学、人体機能学、病理学を復習しておくことが望ましい。				
学 生 に 対 す る 価	①歯科疾患⇒20 点満点の試験 or レポート課題 ②皮膚疾患⇒20 点満点の試験 or レポート課題 ③眼疾患⇒20 点満点の試験 or レポート課題 ④耳鼻咽喉科疾患⇒20 点満点の試験 or レポート課題 ⑤女性生殖器系疾患⇒70 点満点の試験 or レポート課題 合計 150 点満点で評価する。 各領域で 6 割未満の場合はその領域分が再試となる。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔9〕女性生殖器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔12〕皮膚、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔13〕眼、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔15〕歯・口腔、医学書院				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					

科 目 名	臨床治療学Ⅲ				
担 当 教 員 名	室野 晃一				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	本講義は、母性および小児看護に必要な医学の基礎知識を学ぶことを目的とする。周産期ではハイリスクおよび異常と治療、小児では小児に特有な疾病の症状・治療・予後を中心に学修する。				
授 業 の 概 要	母性および小児の健康状態をアセスメントするためには、対象の解剖学的・生理学的特徴に関する知識の活用が不可欠である。また、母性および小児看護においてはウェルネスからハイリスク・健康障害の各ステージに応じた看護が要求される。そのため、妊娠・分娩・産褥の生殖生理、周産期母子の病態とハイリスク、周産期および小児期に高頻度に見られる疾病の原因・病態・診断・治療・予後などに関する基礎的知識を学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 妊娠・分娩・産褥期の生殖生理（1）妊娠の成立、胎児、胎児付属物</li> <li>2 妊娠・分娩・産褥期の生殖生理（2）妊娠による母体・胎児の変化</li> <li>3 妊娠期の病態と異常（1）ハイリスク妊娠と妊娠合併症</li> <li>4 妊娠期の病態と異常（2）異常妊娠</li> <li>5 分娩期の病態と異常（1）産道・娩出力・胎児・胎児付属物の異常、新生児仮死</li> <li>6 分娩期の病態と異常（2）分娩時の損傷、異常出血、産科処置と産科手術</li> <li>7 産褥期の病態と異常（子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎、産褥血栓症、マタニティブルーズ）</li> <li>8 新生児とその疾患、小児の神経・筋疾患</li> <li>9 染色体異常・先天異常</li> <li>10 小児の感染症</li> <li>11 小児のアレルギー疾患</li> <li>12 小児の循環器疾患、川崎病</li> <li>13 小児の呼吸器・消化器疾患、血液疾患</li> <li>14 小児の免疫疾患、膠原病</li> <li>15 小児の内分泌・代謝疾患、腎疾患</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	すでに履修済みの人体形態学、人体機能学、病理学を復習しておくことが望ましい。				
学 生 に 対 す る 価 値	①妊娠分娩⇒100点満点の試験 or レポート課題 ②小児⇒100点満点の試験 or レポート課題 合計 200点満点で評価する。 教員領域ごとの試験で 60点未満の場合はその領域分が再試となる。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論、医学書院				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					

科 目 名	感染微生物学				
担 当 教 員 名	大見 広規				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	栄社保 2 看 1	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	食品衛生：科目 A
学 習 到 達 目 標	ヒトに疾病を起こしうる微生物について、感染ということ、感染成立の 3 要素、感染予防としての手洗い・消毒・滅菌・スタンダードプレコーション、化学療法、薬剤耐性、Compromised host、院内感染、免疫・アレルギーを理解するほか、重要な各種の細菌・ウイルス・真菌・原虫・寄生虫の感染症の症状、予防、治療方法を習得する。				
授 業 の 概 要	指定するテキストに沿って解説する。また、必要な追加の説明を印刷物やプレゼンテーションで示す。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 微生物とは</li> <li>2 感染と感染予防、検査法</li> <li>3 化学療法</li> <li>4 免疫</li> <li>5 感染症予防のための公衆衛生</li> <li>6 細菌学総論、グラム陽性菌感染症</li> <li>7 抗酸菌感染症、グラム陰性球菌感染症</li> <li>8 グラム陰性球桿菌感染症、スピロヘータ感染症、非定型細菌感染症</li> <li>9 ウイルス学総論、ポックス・ヘルペス・アデノ・パピローマ・ポリオマ・パルボ・オルソミクソウイルス感染症</li> <li>10 パラミクソ・ラブド・フィロ・レオ・カリシ・ピコルナ・フラビ・トガ・ブニヤ・アレナウイルス感染症</li> <li>11 コロナ・レトロウイルス感染症、ウイルス性肝炎、スローウイルス感染症、プリオン病、腫瘍ウイルス</li> <li>12 STI</li> <li>13 食中毒、経口感染症</li> <li>14 真菌感染症、原虫感染症</li> <li>15 寄生虫感染症</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	講義は「ビジュアル微生物学」をテキストにし、追加資料、プレゼンテーションなどを組み合わせて実施する。講義の際に復習のための問題集を配布する。また、論述式の復習問題の提出を求める。定期試験は教科書付録の整理ノート、問題集、復習問題から出題する。				
学 生 に 対 す る 価 値	定期試験 100 点により評価する。演習問題から 35 問（各 1 点）、2005 年度（第 20 回）～2018 年度（第 33 回）管理栄養士国家試験問題、2003 年度（第 93 回）～2018 年度（第 108 回）看護師国家試験問題、2005 年度（社会福祉士：第 18 回、精神保健福祉士：第 9 回）～2018 年度（社会福祉士：第 31 回、精神保健福祉士：第 22 回）社会福祉士・精神保健福祉士国家試験共通問題のうちこの分野に関連する問題 35 問（各 1 点）をマークシート方式で回答を求める。復習問題から 4 問（各 5 点）を論述式で説明、用語の説明から感染微生物学で用いる専門用語の回答（10 問×1 点）を求め評価する。また、復習問題の提出状況も最終評価に反映させる場合がある。演習問題、各国家試験問題のうちこの分野に関連する問題、復習問題は e-learning (moodle) 上に掲載している。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	小田 紘 著「ビジュアル微生物学 第 2 版」(ヌーヴェル・ヒロカワ)				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	西條政幸「微生物学 パワーアップ問題演習」医学芸術新社 森尾友宏 他「病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症」メディック メディア				

科 目 名	薬理学				
担 当 教 員 名	吉岡 充弘・結城 幸一・堀之内 孝広				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	栄:2 看:1	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	看護：必修 栄養：選択	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	薬物治療の基礎になるメカニズムを理解する。				
授 業 の 概 要	総論では、薬の作用機序と生体内情報伝達、薬物動態、薬効に影響を与える各種の要因、薬の作用・副作用が現れる原理、アドヒアランスなどについて解説する。また、医薬品添付文書の読み方を習得するとともに関連する法律の概要を解説する。各論では実際の臨床治療で使われている各種薬物（自律神経作用薬、筋弛緩薬、麻酔薬、麻薬、向精神薬、抗てんかん薬、抗不安薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、解熱鎮痛薬、副腎皮質ステロイド、抗高血圧薬、狭心症治療薬、強心薬、抗不整脈薬、利尿薬、高脂血症治療薬、貧血治療薬、喘息治療薬、糖尿病				
授 業 の 計 画	1 総論： アドヒアランス、医薬品医療機器等法、医薬品添付文書の読み方 2 総論： 薬の作用機序、薬物動態 3 各論： 末梢神経活動作用薬Ⅰ 4 各論： 末梢神経活動作用薬Ⅱ 5 各論： 中枢神経活動作用薬Ⅰ 6 各論： 中枢神経活動作用薬Ⅱ、免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬 7 各論： 心・血管系に作用する薬物Ⅰ 8 各論： 心・血管系に作用する薬物Ⅱ、呼吸器に作用する薬物 9 各論： 高脂血症治療薬、貧血治療薬、血液凝固・線溶系に作用する薬物 10 各論： 消化器・生殖器に作用する薬物 11 各論： 物質代謝に作用する薬物 12 各論： 生物学的製剤、皮膚・眼科用薬 13 各論： 抗感染症薬 14 各論： 消毒薬、抗がん薬 15 各論： 生薬、漢方薬				
授 業 の 留 意 点	生理学（人体機能学）、生化学、病態生理学（臨床治療学）、微生物学など関連科目の内容との関連を考えながら履修する。内容が膨大であるので、受講後必ずテキストや参考書を読む、図書館やインターネットで詳しく調べるなど復習をして、そのつど整理しておくこと。				
学 生 に 対 す る 価 評	筆記試験（マークシート方式、配点 100 点）により評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	吉岡充弘編『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 第 14 版』医学書院（2018 年） 浦部晶夫ら編『今日の治療薬 2018』南江堂（2018 年）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	MJ Neal、佐藤俊明訳『一目でわかる薬理学 第 5 版』メディカル・サイエンス・インターナショナル（2007 年） 鈴木正彦 パワーアップ問題演習 薬理学 新訂版 サイオ出版（2013 年）				

科 目 名	臨床薬理学				
担 当 教 員 名	本郷 文教				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	適正な薬物療法を遂行するための基礎知識を習得する。				
授 業 の 概 要	<p>総論では、薬剤師の役割と業務内容を解説する。また医薬品を取り扱う上で必要となる法律の概要を解説し、服薬アドヒアランスの重要性を理解する。各論では、患者に薬が届けられるまでのプロセスから薬物療法の施行過程を解説し、その中で看護師として医薬品を取り扱う際に必要な知識を解説する。主な項目としては患者への与薬時に注意すべき点と服薬指導、注射薬の混注業務と輸液療法、血液製剤の取り扱い、病棟・処置室等における麻薬・向精神薬・ハイリスク薬の管理、感染症治療薬等が挙げられる。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 総論 薬剤師の役割と業務内容及び医薬品を扱う上で遵守すべき法律等</li> <li>2 総論 薬物療法の施行過程、医薬品の作用原理と有害作用</li> <li>3 各論 医薬品管理と麻薬・向精神薬・ハイリスク薬の取り扱い</li> <li>4 各論 がんに使用する薬、および血管外漏出について</li> <li>5 各論 輸液療法とその他の注射薬、血液製剤の取り扱いについて</li> <li>6 各論 感染症に使用する薬について</li> <li>7 各論 薬物血中濃度モニタリングの有用性と医薬品情報の利用の仕方</li> <li>8 各論 生活習慣病治療薬の種類と使い方</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	臨床薬理学で学ぶ薬物療法の内容は基礎となる生理学、病態生理学、薬理学、微生物学、栄養学などの関連科目を理解しておく必要がある。特に受講に際して薬理学のテキストを十分に読み、各々の医薬品の作用、副作用を整理しておくことが重要である。				
学 生 に 対 す る 価 評	選択式・論述式の試験により評価（90点）するが、場合によって授業態度（10点）を加味する。必要によりレポートの提出を求めることがある。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	古川裕之、赤瀬智子、林正健二編 ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 メディカ出版 2016年（第4版）				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	大鹿英世、吉岡充弘著 系統看護学講座専門基礎5 疾病のなりたちと回復の促進②薬理学 医学書院 2005年 河合眞一、島田和幸、浦部晶夫編 今日の治療薬 2017 南江堂 高久史麿、矢崎義雄 監修 治療薬マニュアル 2017 医学書院				

科 目 名	生涯発達論				
担 当 教 員 名	結城 佳子・永谷 智恵				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	栄養・看護：必修 社会福祉：選択	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	生涯発達とは、胎生期から死に至る人の生涯において、より適切な適応のあり方を期待する包括的な概念である。保健・医療・福祉・教育等の領域で対象者を支援しようとするとき、生涯発達についての理解は不可欠である。生涯発達についての基本的理解、人の生涯発達とその過程における危機的状況について理解することを目標とし、人の生涯発達のもつ意味を考える講義としたい。				
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯発達とは何か、基本的理解のための解説を行う。</li> <li>2. E.H.エリクソンの生涯発達理論にそって、各発達段階にある人々のありよう、達成すべき発達課題について解説する。</li> <li>3. 発達課題への取り組みにおいて、危機的な状況にある人々等のありようを解説する。</li> <li>4. 人を理解する上で生涯発達への視点がなぜ必要なのか、多様化・複雑化する社会の中での課題を考える。</li> </ol>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生涯発達とは 発達段階と発達課題</li> <li>2 胎生期から乳児期前期 信頼 対 不信</li> <li>3 乳児期後期 信頼 対 不信</li> <li>4 幼児期前期 自律 対 不信（1）発達危機と人格形成</li> <li>5 幼児期前期 自律 対 不信（2）活力と意思</li> <li>6 幼児期後期 積極性 対 恥・疑惑</li> <li>7 学童期 勤勉性 対 劣等感（1）自己意識と劣等感</li> <li>8 学童期 勤勉性 対 劣等感（2）活力と有能性</li> <li>9 思春期～青年期 同一性 対 拡散（1）思春期・青年期のからだところの変化</li> <li>10 思春期～青年期 同一性 対 拡散（2）アイデンティティとその危機</li> <li>11 思春期～青年期 同一性 対 拡散（3）まとめ 成人期へ</li> <li>12 成年前期 親密性 対 孤独感</li> <li>13 成年期 生殖性 対 停滞感</li> <li>14 成熟期 統合 対 絶望（1）</li> <li>15 成熟期 統合 対 絶望（2）</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	積極的に授業へ参加することを期待する。自ら考える姿勢が望ましい。授業の進行状況等によって講義内容を変更することがある。				
学 生 に 対 す る 価 評	各教員が実施するレポートもしくは筆記試験の結果を担当時間数により案分して評価する（100点）				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	テキストは使用せず、資料を配布する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	必要時指示する。				



科 目 名	家族社会学				
担 当 教 員 名	小野寺 理佳				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	看 護 ・ 社 会 福 祉 : 必 修 栄 養 : 選 択	資 格 要 件	教 職 ( 高 等 学 校 公 民 ) : 必 修
学 習 到 達 目 標	<p>1. 現代家族の成立の歴史についての基本的知識を得る。  2. 家族をめぐる日常的な現象を考察する力をつける。  3. 家族とは何かを考え、自分の家族観を相対化することができる。  以上3点を到達目標とする。</p>				
授 業 の 概 要	<p>家族社会学は、直面する家族問題を深く理解し実践に活かすために参照される学問である。社会そして家族集団において人々は多様な立場におかれ、立場によって家族の見え方も家族に求めるものも異なる。本講義では、身近で具体的な事柄を取り上げながら、家族事象を様々な視角からとらえることを学ぶ。受講者には空欄のあるレジュメを配付する。講義を受けながら自らレジュメを完成させていくことにより、自分の問題意識を深めていく。また、必要に応じて関連する雑誌記事のコピーなどを配付し、家族に関わる様々な出来事をより身近に感じとれるように</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 家族とは誰のことか (1) あなたの家族は誰ですか</li> <li>2 家族とは誰のことか (2) 家族という語の曖昧さ</li> <li>3 家族とは誰のことか (3) 主観的家族論</li> <li>4 近代家族の誕生 (1) 近代家族の特徴</li> <li>5 近代家族の誕生 (2) 近代家族を支える思想</li> <li>6 近代家族の揺らぎ (1) 家族の変容</li> <li>7 近代家族の揺らぎ (2) 家族を選択する時代</li> <li>8 家族に求めるもの (1) 家族に何を求めるか</li> <li>9 家族に求めるもの (2) 自由と選択</li> <li>10 生殖補助医療における親子関係 (1) 生殖補助医療とは何か</li> <li>11 生殖補助医療における親子関係 (2) 父は誰か 母は誰か</li> <li>12 生殖補助医療における親子関係 (3) 科学と家族</li> <li>13 生殖技術と市場 (1) 自由を制限するもの</li> <li>14 生殖技術と市場 (2) 自由と自己責任</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	<p>講義予定は上記の通りであるが、進行状況や受講者の関心动向を考慮しながら、内容構成や順番などを調整する。テキストの内容すべてを順にとりあげることにはしないので各自で学習すること。毎回の予習としてはテキストの関連箇所を読んでおくこと。復習としては、レジュメや配付資料を見直し、テキストの該当箇所を読むこと。リアクションペーパーの提出を求めることがある。</p>				
学 生 に 対 す る 価	レポートにより評価する (100 点)。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	<p>神原文子・杉井潤子・竹田美和 編著  やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ  『よくわかる現代家族』[第2版] ミネルヴァ書房 2009年</p>				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					

科目名	人間工学				
担当教員名	濱田 靖弘				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	
学習到達目標	人間工学の目的は、人間の形態、生理、心理学的諸特性を、道具や装置などの操作に反映させることによって、その使い易さや作業効率・快適性の向上、作業者の負担軽減、ヒューマンエラー（誤動作、誤操作）の防止等をはかることにある。				
授業の概要	看護や介護は、直接、人に触れ、また、道具や装置を使って人を支援する行為の過程ともいえる。この基礎として、人間の生理・心理学的諸特性を含む人間工学の知識を学ぶ。それらによって、質の高い看護および介護活動が実現される。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 人間工学の概要（1）</li> <li>3 人間工学の概要（2）</li> <li>4 人間と環境—温熱環境（1）—</li> <li>5 人間と環境—温熱環境（2）—</li> <li>6 人間と環境—温熱環境（3）—</li> <li>7 人間と環境—温熱環境（4）—</li> <li>8 人間と環境—光環境（1）—</li> <li>9 人間と環境—光環境（2）—</li> <li>10 人間と環境—光環境（3）—</li> <li>11 人間と環境—空気環境（1）—</li> <li>12 人間と環境—空気環境（2）—</li> <li>13 人間と環境—音環境—</li> <li>14 まとめ（1）</li> <li>15 まとめ（2）</li> </ol>				
授業の留意点	「解剖学」や「生理学」の知識に加え、「心理学」に関する知識も必要なので、これらに関する科目を履修していることが望ましい。また、受講後の復習に心がけ、不明な点は質問すること。				
学生に対する評価	小テスト（40点）、試験（60点）				
教科書（購入必須）	教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布して行う。				
参考書（購入任意）					

科目名	カウンセリング・コミュニケーション論				
担当教員名	高本 美明				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	社会福祉：必修 栄養・看護：選択	資格要件	
学習到達目標	カウンセリングやコミュニケーションに関する理論と方法について学び、対人援助職者に必要なカウンセリング・マインドとコミュニケーション能力を身につける。医療・保健・福祉・教育といった各領域における専門家に必要な資質（心構え、態度、関係性等）を養うことを目標とする。				
授業の概要	語学におけるコミュニケーションではなく心理学領域で発展してきたカウンセリングやコミュニケーションにかかわる理論と方法について学ぶ。言語的コミュニケーションを用いるサイコセラピー（心理療法）の中でも、精神分析（フロイト）、カウンセリング（ロジャーズ）、ナラティブ・セラピー（社会構成主義）、家族療法（ミラノ派）、サイコドラマ（即興劇）などを多く取り上げる。親子のふれあい遊びその他の行動カウンセリングにより言語的なコミュニケーション発達だけでなく非言語的なコミュニケーション発達も支援できるような対人援助のエキス				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ディスコミュニケーション（和製英語）①：映画『12人の優しい日本人』（社会的な手抜き）</li> <li>2 ディスコミュニケーション②：映画『12人の優しい日本人』（社会的コミュニケーション）</li> <li>3 対人的コミュニケーション①：プロフィール帳（出会い、自己開示）</li> <li>4 対人的コミュニケーション②：連想ゲーム（心の理解）</li> <li>5 心理療法におけるコミュニケーション：ダブル・バインド（ベイトソン）、自由連想法、フロイト的失錯行為、交流分析（エゴグラム）</li> <li>6 精神分析（フロイト）におけるコミュニケーション①：映画『ライムライト』（ヒステリー）、映画『カイロの紫のバラ』（防衛機制）</li> <li>7 精神分析（フロイト）におけるコミュニケーション②：映画『夢の降る街』（精神分析、妄想、意識・無意識）</li> <li>8 精神分析（フロイト）におけるコミュニケーション③：映画『夢の降る街』（精神分析、転移・逆転移）</li> <li>9 カウンセリング（ロジャーズ）におけるコミュニケーション①：映画『ワンダフルライフ』（社会構成主義）</li> <li>10 カウンセリング（ロジャーズ）におけるコミュニケーション②：映画『ワンダフルライフ』（ナラティブ・セラピー）</li> <li>11 専門職連携（IPW）のためのコミュニケーション：ケース・カンファレンス（ジェノグラム）</li> <li>12 集団カウンセリング：エンカウンター・グループ（ロジャーズ）、家族療法：もつれ家族・ばらばら家族（ミニューチン）</li> <li>13 家族間コミュニケーション：住出知代「川音」（家族造形法）</li> <li>14 サイコドラマ（心理劇）でのコミュニケーション：即興劇（モレノ）</li> <li>15 親子のコミュニケーションを促す行動カウンセリング：親子遊び方教室（発達支援）</li> </ol>				
授業の留意点	エクササイズやケース・スタディなどの実技には積極的に参加し、自己を開示し合うことを期待する。動きやすい服装での受講を指示することがある。講義内容により教室を変更するため、事前に掲示等で確認し、遅れずに出席していただきたい。				
学生に対する評価	(1) 期末試験 70 点 (2) 授業時のリアクションペーパー 30 点				
教科書（購入必須）	教科書は使用せず、資料を配布する。				
参考書（購入任意）	陳省仁・古塚孝・中島常安（編著）、糸田尚史（分担執筆）『子育ての発達心理学』 同文書院 2003 年 団士郎 『家族の練習問題：木陰の物語 3（父よ母よ）』 ホンブロック 2009 年				

科 目 名	保健医療福祉連携論				
担 当 教 員 名	保健福祉学部教員				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保健師：必修
学 習 到 達 目 標	様々な現場実践に関する話題提供を踏まえ、グループワークで各専門職の業務や役割を共有するとともに、専門職連携の推進に向けての課題や取組の方向性を明らかにして、保健医療福祉連携に対する総合的な視野を広げることを目的とする。				
授 業 の 概 要	1 学年を数グループに分割したグループ別講義及び演習を行う。各専門職の役割を互いに理解し、そこから専門職連携の実践に向けての課題や取組の方向性についてグループワークを行う。検討したことを整理し、全体報告会で発表し、本学の連携教育科目の総まとめとして仕上げていく。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、グループ分け</li> <li>2 グループ別講義（1）</li> <li>3 グループ別講義（2）</li> <li>4 グループ別講義（3）</li> <li>5 グループ別講義（4）</li> <li>6 報告会の準備</li> <li>7 全体報告会</li> <li>8 全体報告会、講義のまとめ</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	グループ毎に開講日が異なるため、各自が出席すべき日時および教室等に留意すること。 各学科の講義や実習の事情により、出席すべき日時に不都合が生じた場合は速やかに担当教員と連絡を取り、対処方法を検討すること。				
学 生 に 対 す る 価 評	レポートにより評価する。(100点)				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )					
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					

科目名	社会福祉概論（看護学科）				
担当教員名	田中 利宗・松浦 智和				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	
学習到達目標	1.社会福祉の基本理念や制度、現状を歴史的な歩みの視点を通し学ぶ。 2.看護を学ぶ学生が、1人の生活者として人間の福祉を深く理解していくことを目的とする。				
授業の概要	社会福祉の歴史をたどりながら、社会福祉の理念や制度が社会の変化などと相まって発展してきたことを学習し、21世紀をむかえての社会福祉の動向と課題を現実の中で考察する。また、看護の国家資格や職場で必要とされる知識と技術、福祉職との関連についても言及する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会福祉を学ぶにあたって(オリエンテーション)</li> <li>2 社会福祉保障制度と社会福祉</li> <li>3 現代社会の変化と社会保険・社会福祉の動向</li> <li>4 医療保障</li> <li>5 介護保険（DVDを見て学ぶ）</li> <li>6 所得保障</li> <li>7 公的扶助</li> <li>8 中間まとめ</li> <li>9 高齢者福祉</li> <li>10 障害者福祉</li> <li>11 児童福祉</li> <li>12 社会福祉実践と医療・看護</li> <li>13 社会福祉を支える基盤</li> <li>14 社会福祉の歴史</li> <li>15 総まとめ</li> </ol>				
授業の留意点	教科書にもとづいて授業を進める。 看護の専門家に求められる多くの知識のなかに社会福祉（社会保障）関連の知識があることを意識し、受講してほしい。				
学生に対する評価	(1)小テスト・課題レポート(3回実施予定)：40点 (2)前期試験・期末試験：60点				
教科書(購入必須)	系統看護学講座『社会福祉 健康支援と社会保障制度③』医学書院				
参考書(購入任意)					

科 目 名	地域との協働 I				
担 当 教 員 名	保健福祉学部教員				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	専門職連携の実践者として今後携わっていく上で必要な知識や背景、実践例などについて幅広く学び、自身の職における立ち位置や役割を把握するとともに、地域課題や対象者のニーズに触れながら、連携実践に対する具体的なイメージを高めることを目標とする。				
授 業 の 概 要	全体を2クラスに分けた大クラス講義と1学年を6クラスに分けた中クラス講義、中クラスからさらに少人数に分かれたチームと、展開する場を回毎に設けて授業を行う。報告会では中クラス、小チーム活動について大クラスで共有をする。全体講義では保健医療福祉連携に必要なグループワーク技術や本学の歴史について学ぶ。クラス講義では学内教員によるゲストスピーカーより各教員の専門性等について紹介を受けた上で、適宜グループワークを行うことで、連携実践において必要な多角的視点を養う。チーム活動では担当教員にリードにより専門的な学習の				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・本学の歴史的経緯と保健医療福祉連携（全体講義）</li> <li>2 グループワーク演習（全体講義）</li> <li>3 他職種理解・チームケア（クラス講義）その1</li> <li>4 他職種理解・チームケア（クラス講義）その2</li> <li>5 多種多様な分野の理解（チーム授業）その1</li> <li>6 多種多様な分野の理解（チーム授業）その2</li> <li>7-8 講義のまとめ（全体講義）</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	クラス・チームごとに開講日や教室が異なるため、各自が出席するべき日時と教室を把握した上で授業に出席すること。クラス講義では、話題提供と併せてグループワークを行う予定である。グループワークの取り組み方をトレーニングするための場でもあるので、一人ひとりが積極的に取り組むこと。				
学 生 に 対 す る 価 値	受講態度、課題取組状況、提出物、成果発表により評価する。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )					
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					

科目名	地域との協働Ⅱ				
担当教員名	保健福祉学部教員				
学年配当	2年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	通年	必修選択	必修	資格要件	
学習到達目標	幅広い年齢層の地域住民を対象に、栄養・看護・福祉・保育の専門的知識と教養を活用しながら、フィールドあるいは学内で行事または活動を準備・実施し、地域と専門職が機能的に連携・協働するための仕組みについて学ぶ。演習では、自他の役割を自覚し互いに尊重しながら、地域課題や対象者のニーズに応えるための学習を深め、地域と協働して活動することの意義や、専門職連携に対する理解を深めることを目標とする。				
授業の概要	少人数・学科混成グループを編成し、提示したテーマ別に活動する。演習は、①各種資料の分析や聞き取り調査等を通じて、地域課題や対象者のニーズを検討する、②グループでの役割を分担し、行事等を準備・実施する、③グループワークから得た学びを発表・討議し、専門職連携の意義と効果を全体で共有するという3段階に分けて構成する。指導は担当教員のほか、地域との協働Ⅲを履修する3年生も補助として参加し、活動を円滑に取り組めるよう支援する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：担当教員・学生からのテーマ説明、グループ分け</li> <li>2 グループ別ガイダンス</li> <li>3 地域課題、対象者のニーズを把握するための調査活動（1）</li> <li>4 地域課題、対象者のニーズを把握するための調査活動（2）</li> <li>5 行事・活動等の役割分担</li> <li>6 行事・活動等の準備（1）</li> <li>7 行事・活動等の準備（2）</li> <li>8 行事・活動等の実施（1）</li> <li>9 行事・活動等の実施（2）</li> <li>10 行事・活動等の実施（3）</li> <li>11 行事・活動等の実施（4）</li> <li>12 行事・活動等の振り返り</li> <li>13 活動のまとめ、報告会の準備</li> <li>14 全体報告会（1）</li> <li>15 全体報告会（2）</li> </ol>				
授業の留意点	グループ別演習では、活用するフィールドの都合等により開講日が各グループで異なるため、担当教員およびグループ内との連絡連携を密にして演習に取り組むこと。また、グループに対する責任が生じるため、無断欠席はしないこと。				
学生に対する評価	受講態度、演習態度、提出物、成果発表等を総合して評価する。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）					

科 目 名	地域との協働Ⅲ				
担 当 教 員 名	保健福祉学部教員				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	地域との協働Ⅰ・Ⅱでの学びを踏まえ、専門職連携のコーディネーターとして活動するうえで求められるリーダーシップ性、コミュニケーション力、マネジメント力を総合的に高め、フィールド活動に主体的に参加する姿勢を身につけることを目標とする。				
授 業 の 概 要	全体講義でリーダーシップ論、マネジメント論などについて扱うとともに、一部ロールプレイングなどを取り入れて、連携実践をコーディネートするために必要な能力を養成する。途中からは「地域との協働Ⅱ」の活動に参加し、2年生のサポート役として必要な援助を行う。まとめとして、今年度の活動を振り返り、前年度の活動との比較や評価、引き継ぎ事項の確認など、運営側として検討すべき事項を洗い出し、継続的な活動につなげるための方策について検討する。				
授 業 の 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 専門職連携におけるリーダーシップ（全体講義）</li> <li>3 専門職連携におけるコミュニケーション（全体講義）</li> <li>4 専門職連携におけるマネジメント（全体講義）</li> <li>5-8 フィールド活動の企画立案</li> <li>9-12 ロールプレイング</li> <li>13-14 企画したフィールド活動に対する考察</li> <li>15-16 「地域との協働Ⅱ」にむけての準備</li> <li>17-29 「地域との協働Ⅱ」のサポート</li> <li>30 引き継ぎ事項の確認・演習のまとめ</li> </ul>				
授 業 の 留 意 点	フィールドの都合等により開講日が各グループで異なるため、担当教員およびグループ内との連絡連携を密にして演習に取り組むこと。また、グループに対する責任が生じるため、無断欠席はしないこと。また、本演習では、地域との協働Ⅱで活動したフィールドとは別のフィールドを選択することも認める。				
学 生 に 対 す る 価 評	受講態度、演習態度、提出物、成果発表等を総合して評価する。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )					
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					



科 目 名	公衆衛生学				
担 当 教 員 名	荻野 大助				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	食 品 衛 生 : 科 目 A
学 習 到 達 目 標	公衆衛生学の基本的概念を学び、今日的課題についても、衛生行政および各種保健活動とも関連させながら理解を深める。				
授 業 の 概 要	公衆衛生学は、人を社会生活者と捉え、社会や環境との関連から人の健康障害の原因を明らかにし、健康を保持増進し、疾病・障害を予防し、すべての人がよりよく生きる社会の実現に寄与する学問である。授業では、まず、健康の概念、公衆衛生の目的について述べ、健康に関連する要因（宿主要因、環境要因、病因）と病気の発生、特に、どのような環境およびライフスタイル（栄養、運動、休養、喫煙、飲酒など）が生活習慣病を引き起こす危険性（リスク）を高めるのかについて説明する。さらに、健康指標としての各種の保健統計、健康増進施策、少子高齢				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 公衆衛生の歴史（日本と外国）</li> <li>2 疫学の基本事項</li> <li>3 健康水準・健康指標と衛生統計</li> <li>4 感染症とその予防</li> <li>5 食品衛生と衛生管理</li> <li>6 生活環境（衣服と住居、水道、廃棄物）</li> <li>7 医療制度（行政、資源、医療費）</li> <li>8 地域保健（保健所と市町村保健センター）</li> <li>9 母子保健（母子保健事業、少子化対策）</li> <li>10 学校保健</li> <li>11 生活習慣病</li> <li>12 難病と精神保健</li> <li>13 産業保健（労働衛生）</li> <li>14 健康危機管理（災害と健康）</li> <li>15 救急医療（心肺蘇生）</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	他の授業科目とも関連する重要な事柄が、それぞれの単元の学習において頻出する。ただ単にキーワードを暗記するのではなく、きちんと内容を理解するよう努めることが大事である。				
学 生 に 対 す る 価	課題（25点）と期末試験（75点）で成績評価を行う。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	清水忠彦、佐藤拓代 編『わかりやすい公衆衛生学 第4版』ヌーヴェルヒロカワ 厚生統計協会編『厚生指標・国民衛生の動向』厚生労働統計協会（2019/2020年）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	人間関係論				
担 当 教 員 名	結城 佳子				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	看護（学）の担い手は、対人援助専門職として対象者との間に援助的人間関係を構築し、維持することが求められる。人の発達、成長、成熟に深く関わる人間関係の基礎的理論を学び、自己理解・他者理解を通じて、看護実践の基礎となる人間関係について理解を深めることを目標とする。				
授 業 の 概 要	ほぼ毎回の授業で講義とともに小課題、ワークなどに取り組み、体験を通して人間関係について理解を深める。小課題、ワークの内容によっては、グループワークを行うこともある。各回の授業での体験や学びを授業時間内に小レポートにまとめ、提出する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション/人間関係の基礎① 人間関係の基本的視点</li> <li>2 人間関係の基礎② 自己理解</li> <li>3 人間関係の基礎③ 他者理解</li> <li>4 自己と他者のコミュニケーション① 話す/聴く</li> <li>5 自己と他者のコミュニケーション② 観る/感じる</li> <li>6 人間関係の生涯発達① 乳幼児期～学童期</li> <li>7 人間関係の生涯発達② 思春期・青年期～老年期</li> <li>8 中間まとめ</li> <li>9 人間関係の諸相① 家庭</li> <li>10 人間関係の諸相② 学校/職場</li> <li>11 集団の人間関係① 支配と権威/親和と同調</li> <li>12 集団の人間関係② 攻撃と敵対/援助と協調</li> <li>13 対人援助における人間関係① 医療チームにおける人間関係</li> <li>14 対人援助における人間関係② 患者-看護師関係</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	主体的に授業に参加し、感じ、考え、学ぶ姿勢を求める。授業の進行状況、時事問題によって講義内容を変更することがある。				
学 生 に 対 す る 価	講義各回で提出する小レポート 30 点、レポート課題 70 点、合計 100 点とし、以下の 5 段階で評価する。 S：素点 90 点以上、A：素点 80～89 点、B：素点 70～79 点、C：60～69 点、D：59 点以下 C以上の評価について単位を認定する。D評価の者は課題再提出とし、同様に評価する。 なお、学習の進行状況によりレポート課題を課することがある。その場合の評価も同様に行う。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	必要時、指示する。				

科 目 名	疫学				
担 当 教 員 名	荻野 大助				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	看護：必修 栄養：選択	資 格 要 件	保健師：必修
学 習 到 達 目 標	疫学に関する基礎概念を知ること。疫学研究デザインの使い分けを知ること。疫学指標（リスクの指標、疾病頻度の指標、スクリーニングの指標）の計算ができること。				
授 業 の 概 要	「公衆衛生 Public Health」は人間集団における「疾病の予防」と「健康および QOL の増進」を目指し、「疫学 Epidemiology」はそのためのツールである。疫学の基礎概念・疫学研究デザインの考え方と使い分けについて知り、疫学指標の計算練習をする。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 疫学の定義・歴史上の疫学の業績</li> <li>2 疾病の発生原因解明の追及までの流れ</li> <li>3 疫学指標（1）～「頻度の測定」</li> <li>4 疫学指標（2）～「頻度の比較」</li> <li>5 疫学研究を始める前に</li> <li>6 疫学研究方法の種類・記述疫学（1）</li> <li>7 記述疫学（2）</li> <li>8 分析疫学（1）～「横断研究と生態学的研究」</li> <li>9 分析疫学（2）～「症例対照研究」</li> <li>10 分析疫学（3）～「コホート研究」</li> <li>11 介入研究</li> <li>12 因果関係・交絡因子</li> <li>13 スクリーニング</li> <li>14 疾病登録・サーベイランス</li> <li>15 疫学研究と倫理</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	教科書をよく読んで、重要事項を整理し、配布した補題等の計算練習をしておくこと。 計算練習の時は、電卓（関数電卓でも可）を持参すること。 試験の時は、携帯電話・スマートフォン・タブレット・電子辞書・パソコンを使用禁止とする。				
学 生 に 対 す る 価 評	期末試験（100 点満点）で評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	日本疫学会（監修）『はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第 3 版』南江堂 授業に必要なプリントはその都度配布する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	1 年生で購入した 清水忠彦、佐藤拓代 編『わかりやすい公衆衛生学 第 4 版』ヌーヴェルヒロカワ 厚生統計協会編『厚生指標・国民衛生の動向』厚生労働統計協会（2018/2019 年）				

科 目 名	保健医療福祉行政論				
担 当 教 員 名	大見 広規・室矢 武志				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保健師：必修
学 習 到 達 目 標	保健医療福祉行政の目的、制度、仕組み、今後の課題について学ぶ。				
授 業 の 概 要	保健医療福祉行政とは国民の基本的な権利である健康で文化的な生活を営む権利を保障するために、行政権の主体である国・地方自治体が行う活動である。その基本原則や社会情勢に伴う変遷について解説する。また、保健医療福祉行政の各分野について、基本的な法体系や制度について理解し、将来専門職として、保健医療福祉施策を担い、社会情勢に応じた新たな施策の構築に主体的に参画できる基本的能力を養う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健医療福祉行政のめざすもの、公衆衛生行政の歴史（大見）</li> <li>2 公衆衛生行政の大枠（大見）</li> <li>3 健康増進施策、地域保健行政、保健医療福祉計画と評価（大見）</li> <li>4 医療供給体制、介護保険制度（大見）</li> <li>5 感染症対策、健康危機対策、薬事行政</li> <li>6 母子保健行政、学校保健行政</li> <li>7 労働衛生行政、精神保健行政（大見）</li> <li>8 生活衛生・環境保全行政（大見）</li> <li>9 保健行政の科学的根拠（生命科学）について考える（大見）</li> <li>10 地域保健行政における保健師の役割（室矢）</li> <li>11 地域保健行政と予算のしくみ（室矢）</li> <li>12 公衆衛生における保健師活動の実際（1）（室矢）</li> <li>13 公衆衛生における保健師活動の実際（2）（室矢）</li> <li>14 保健事業を考える（1）（室矢）</li> <li>15 保健事業を考える（2）（室矢）</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	公衆衛生学、保健医療福祉連携論など、これまで学んだ科目の内容との関連を考えながら履修する。受講後必ず参考書を読む、図書館やインターネットで詳しく調べるなど復習をして、そのつど知識を整理しておくこと。				
学 生 に 対 す る 価 値	筆記試験（70点）・レポート課題（30点）により評価する。 筆記試験は正誤問題40題、選択肢問題60題（各1点）とし、正誤問題は復習問題のまとめと例題、選択肢問題は2009年度（第96回）～2018年度（第105回）保健師国家試験のうちこの分野に関連する問題から出題する。また、復習問題の提出状況も最終評価に反映させる場合がある。国家試験問題のうちこの分野に関連する問題と、復習問題はe-learning（moodle）上に掲載している。（大見）				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	藤内修二他編『標準保健師講座別巻1・保健医療福祉行政論 第4版』医学書院（2017年） 厚生統計協会編『厚生指針・国民衛生の動向』厚生統計協会（2018/2019年）				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	上田茂編『衛生行政大要』日本公衆衛生協会（2016年・改訂第24版）				

科目名	福祉環境論				
担当教員名	小林 浩				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	
学習到達目標	目標は三つある。一つは、福祉住環境改善(高齢者や障害者のバリアフリーな住生活に配慮した住宅改善)における社会福祉士や保健師・看護師に期待される役割を理解することである。二つは、福祉住環境改善のための建築手法(いわゆるバリアフリー化手法)、高齢者にとって適切な温熱(温度と湿度)環境と色彩・照明環境の概要を理解することである。三つは建築空間にかかわる(使用するのにスペースの確保を必要とする)大型福祉用具の種類・機能を理解することである。				
授業の概要	福祉住環境改善は、高齢者の事故防止、介護予防、介護負担の軽減などを図る上で必須の課題になる。この改善のための支援プロセスにおいて、社会福祉士、保健師・看護師などの保健医療福祉スタッフには、対象者の生活の場に臨んで活動する職種であるがゆえの役割に対する期待がある。住環境に存在している問題・課題を発見すること、対象者に対し改善への動機づけを行うこと、改善後にフォローアップするという役割である。上記三つを目標にして、これらの期待される役割にかかわる基礎的知識・認識について解説する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 高齢期における福祉住環境改善の役割と改善プロセスにおける在宅ケア支援職への期待</li> <li>2 福祉住環境改善の事例</li> <li>3 建築空間理解のための基礎事項(建築図面、平面記号、動線、戸建て住宅の構造・工法)</li> <li>4 高齢者の身体的・心理的特性(傾向)</li> <li>5 バリアフリー化の共通基本手法(1)段差の解消、床材の選択、手すりの取付け</li> <li>6 バリアフリー化の共通基本手法(2)建具への配慮、スペースへの配慮、家具・収納への配慮</li> <li>7 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(1)外出、屋内移動(アプローチ・外構、玄関)</li> <li>8 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(2)屋内移動(廊下、階段、出入口)</li> <li>9 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(3)排泄(トイレ)</li> <li>10 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(4)入浴(浴室)</li> <li>11 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(5)着脱衣・洗面・整容、調理と食事、団らん、就寝(洗面・脱衣室、台所・食堂、居間、寝室)</li> <li>12 建築空間にかかわる大型福祉用具(段差解消機、階段昇降機、リフト)と介護保険対象の改修工事、福祉用具</li> <li>13 地域ケア実習室の見学(バリア箇所、バリアフリー箇所の比較確認)</li> <li>14 高齢者・身障者に配慮した温熱環境</li> <li>15 インテリアの色彩と照明</li> </ol>				
授業の留意点					
学生に対する評価	試験(配点 80 点)と住まい診断(レポート、配点 20 点)で評価する。				
教科書(購入必須)	テキストは指定しない。授業時に資料プリントを配付する。				
参考書(購入任意)					

科目名	人権と法				
担当教員名	松倉 聡史				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	教職(高等学校 公民):必修
学習到達目標	学習到達目標として、①人権を人間の尊厳性という根拠から導かれることの意義と考察を深めること、②「基本的人権の尊重」という法学的な定義に対する見解を考察すること、③人権は第一に人間の本質たる人格性にもとづく、前国家的・生来的権利であり、第二に自由権であることを基本とし、第三に個人権であり、自然人に帰属する権利であることを理解する、④自由権のみならず社会権も基本的人権とすることの根拠を理解する、⑤人権の分類と体系を理解すること、⑥人権の歴史的展開や国際社会における人権を理解することとする。				
授業の概要	①世界の人権の歴史的展開をたどり、日本における人権の軌跡を探っていく。②明治憲法下の人権の特徴と日本国憲法の基本的人権と分類を探る。③国際法における人権分野と国連の動きを考える。④生活の中の人権を考え、21世紀の人権のあり方を考える。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 人間の尊厳とは何か</li> <li>2 基本的人権の尊重の根拠</li> <li>3 人権の自然権としての位置づけ</li> <li>4 世界の人権の歴史的展開(1)</li> <li>5 世界の人権の歴史的展開(2)</li> <li>6 日本の人権の歴史的展開</li> <li>7 国際社会における人権</li> <li>8 個人の権利とマイノリティー集団の権利</li> <li>9 子どもの人権</li> <li>10 子どもの権利条約の制定経過と特徴</li> <li>11 女性の権利</li> <li>12 具体的事例(1) 公民権運動</li> <li>13 具体的事例(2) 生命倫理と人権</li> <li>14 20世紀の人権とは何であったか・・・戦争と平和の問題を考える</li> <li>15 21世紀の人権を考える</li> </ol>				
授業の留意点	人権の特性を法学的な視点から理解することを基礎としながら、世界および日本における歴史的展開を学び、具体的な事例における問題点を探っていく思考力を養うことに力点を置く。				
学生に対する評価	授業参加態度(10点)、リアクションペーパー(20点)、レポート試験(70点)で総合的に評価する。				
教科書(購入必須)	必要な資料を配布して、参考文献を紹介していく。				
参考書(購入任意)					

科目名	ソーシャルインクルージョン論				
担当教員名	堀 智久				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	
学習到達目標	<p>ソーシャルインクルージョンとは、これまで何らかの理由で社会から排除されてきた人、たとえば、障害者や貧困層、子ども、高齢者や女性、移民など、社会的弱者を含むすべての人を社会が包摂するという意味である。たとえば、障害者領域では、2006年に障害者権利条約が成立し（日本も2014年に批准）、その第3条「一般原則」では「社会への完全かつ効果的な参加及びインクルージョン」が掲げられている。本講義では、とくに障害者領域を中心に、障害（あるいは病い）に対する把握がいかにしてつくられているのか、あるいはそのなかで専門職は</p>				
授業の概要	<p>授業の計画にあるように、前半では、障害（あるいは病い）に対する把握が社会との関係性においていかにしてつくられるのか、あるいはそのなかで専門職はいかなる役割を担っているのかについて、多角的かつ複眼的な視点から学習する。後半では、障害者に限らず、能力という面において不利な立場に置かれている人が、つつがなく生きていける社会はいかにして構想され得るのかについて、能力と社会との関係性を様々な観点から読み解いていくことから考察を深める。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 障害をどう捉えるのか</li> <li>3 障害の社会モデル</li> <li>4 障害者権利条約</li> <li>5 障害者差別解消法</li> <li>6 障害者基本法</li> <li>7 スティグマ (stigma)</li> <li>8 医療化 (medicalization)</li> <li>9 専門職 (professional) と資格</li> <li>10 メリトクラシー (meritocracy)</li> <li>11 機会の平等と結果の平等</li> <li>12 社会的包摂 (social inclusion)</li> <li>13 ベーシックインカム (basic income)</li> <li>14 総合リハビリテーションとは何か</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
授業の留意点	配布資料の自己管理をしっかり行うこと。必ず復習しましょう。				
学生に対する価	リアクションペーパー (40点)、レポート課題 (30点)、期末試験 (30点)				
教科書 (購入必須)	テキストについては別途周知する。また、毎回、関連する資料を配布する。				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	医療福祉論				
担 当 教 員 名	木下 一雄				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	社会福祉士・精神保健福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	医療分野における社会福祉実践について歴史や医療ソーシャルワークの事例を通して理解を深める。 医療福祉実践（医療ソーシャルワーク）に必要な価値・倫理、医療保障制度、各所属機関における業務について具体的に示し、連携・チームワークについても理解する。				
授 業 の 概 要	保健医療福祉を学ぶ者にとって、医療現場における医療ソーシャルワーカー（MSW）の業務を理解しておくことは、活用できるフォーマルな社会資源やその連携の実際を知ることにつながる。 地域にいる MSW の具体的実践内容を知り、各種実習や社会生活で活用できる基礎となるよう受講者と応答的に展開したい。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割</li> <li>2 医療政策の変遷と保健医療サービスの課題</li> <li>3 保健医療サービスを提供する施設とシステム</li> <li>4 介護保険制度と在宅支援システム</li> <li>5 保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーク</li> <li>6 保健医療サービスの専門職の役割</li> <li>7 保健医療サービスの提供と経済的保障</li> <li>8 介護保険制度と介護報酬・公費負担制度の概要</li> <li>9 保健医療サービスにおける専門職連携と実践（IPW）</li> <li>10 支援事例から見た医療福祉に関する医療保障制度</li> <li>11 保健医療の専門職と連携の実際</li> <li>12 医療における連携・チームワークとその促進</li> <li>13 介護保険制度と医療保険、EBP の必要性</li> <li>14 医療ソーシャルワーカーの支援事例</li> <li>15 コミュニティにおける医療ソーシャルワークの役割と課題</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	保健医療福祉領域の広がりや連携の重要な役割を果たす医療ソーシャルワークの業務について、保健医療サービスの現状について関心を持って授業に臨んでほしいと思います。				
学 生 に 対 す る 価 値	課題レポート（20点）、定期試験（80点）を実施し、総合的に評価します。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	中央法規 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第17巻 保健医療サービス 第4版』 他に随時、資料等配布予定				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					



科目名	看護学概論				
担当教員名	畑瀬 智恵美				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	
学習到達目標	1. 看護とは何かについて説明できる。 2. 看護学の構成要素である看護、人間、健康、環境の概念および概念間の関連性について説明できる。 3. 看護理論の複数のキーワードについて説明できる。 4. 保健医療福祉分野における看護の役割について説明できる。 5. 看護における倫理の重要性について説明できる。				
授業の概要	看護の本質、看護学の学問特性、職業的看護の歴史的経緯・法的基礎、社会のニーズと看護の機能など、実践学を成立させる基本的要素について理解する。そのために中心的な看護概念を把握し、主な看護理論を学ぶ。また、近年の保健医療福祉分野における看護職の役割と機能を理解する。さらに、看護の対象者である人間を理解するための倫理的態度やケアリングを学び、看護職としての看護観の確立に努める。				
授業の計画	1 オリエンテーション、看護の変遷－看護の原点、看護の語源 2 看護の変遷－看護の歴史 3 「看護覚え書」からナイチンゲールの述べる看護について グループでまとめる 4 看護学の主要概念 看護、人間 5 看護学の主要概念 看護、人間 6 看護学の主要概念 健康、環境 7 ナイチンゲール「看護覚え書」講読の発表 8 看護理論の変遷と概要 9 看護理論の講読（グループワーク） 10 職業的看護の発展 11 看護の役割と機能 12 看護制度と政策、看護サービス 13 看護における倫理・法 14 看護理論の講読（グループワーク） 発表資料作成 15 看護理論の講読（グループ発表）				
授業の留意点	看護に関するさまざまな文献を読むなど積極的に学習し、「看護とは何か」について、主体的に考えていきましょう。また、グループワークの際は協力しましょう。 事前課題に示したものは、授業までにまとめましょう。				
学生に対する評価	定期試験 80点と提出物 20点の合計点で評価します。尚、試験 6割（48点）以上、提出物 6割（12点）以上を取得した場合に合格となります。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教科書（購入必須）	①茂野香おる代表：系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学[1] 看護学概論、第16版、医学書院 ②フローレンス・ナイチンゲール著『看護覚え書』（改訂第7版）現代社 ③ヘンダーソン.V（湯槇ます・小玉香津子訳）：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会				
参考書（購入任意）	・城ヶ端初子編：新訂版 実践に生かす看護理論 19、サイオ出版				

科目名	看護技術論				
担当教員名	畑瀬 智恵美				
学年配当	1年	単位数	1単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	
学習到達目標	1. 看護技術の特徴について説明することができる。 2. 看護技術における安全性・安楽性・自立支援について説明することができる。 3. 科学的根拠に基づいた看護を展開する技術について説明することができる。 4. 看護の専門性と看護技術の発展について説明することができる。 5. 看護技術の修得過程における課題を述べるることができる。				
授業の概要	看護の対象となる人々へ安全で、安楽な、そして自立を促すことを目指した目的意識的な行為である看護技術の特徴について理解する。看護技術は、科学的根拠に基づいて、個別性を重視して実践されること、看護技術の修得過程における課題について考察していく。				
授業の計画	1 看護技術の特徴 2 看護技術の特徴：サイエンスでありアートであるという意味について 3 看護技術の要素：安全性、安楽性、自立支援 4 看護技術の要素：グループワーク 5 看護技術の要素：グループワークの発表 6 看護技術と看護過程 7 看護技術と看護理論 8 看護の専門性と看護技術の発展				
授業の留意点	授業の中で、次回の授業内容に関する教科書のページを指定するので、読んだ上で講義に臨んでください。また、グループワークでは、メンバーの考えをきいて、学習を深めてください。				
学生に対する評価	定期試験 80 点と提出物 20 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（48 点）以上、提出物 6 割（12 点）以上を取得した場合に合格となります。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教科書（購入必須）	深井喜代子編：基礎看護技術 I、メヂカルフレンド社				
参考書（購入任意）	授業中に提示する。				

科 目 名	看護共通技術 I				
担 当 教 員 名	鈴木 朋子・齋藤 千秋				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<p>1. 看護実践の基本となる感染防止、安楽促進技術、安全管理技術について、科学的根拠を踏まえて説明することができる。</p> <p>2. 看護実践に共通する感染予防技術、安楽促進技術に関する基本的な看護技術を実施できる。</p>				
授 業 の 概 要	看護実践に必要な感染予防技術、安楽促進への援助を学ぶ。				
授 業 の 計 画	<p>1 オリエンテーション、感染予防技術</p> <p>2 感染予防技術</p> <p>3 感染予防技術【演習】手洗い、個人防護用具の装着①</p> <p>4 感染予防技術・スタンダードプリコーション（認定看護師）</p> <p>5 安楽促進技術</p> <p>6 安楽促進技術</p> <p>7-8 安楽促進技術【演習】ボディメカニクスの基本、安楽な体位、体位変換</p> <p>9 安楽促進技術【演習】温電法、冷電法</p> <p>10-11 病院見学</p> <p>12-13 感染予防技術【演習】消毒、滅菌、個人防護用具の装着②</p> <p>14-15 安全管理技術（ヒューマンエラー、看護事故の構造、看護事故防止対策）</p>				
授 業 の 留 意 点	<p>学生個々が主体的な練習を繰り返して看護技術を修得していく必要があります。自己学習として、1 年次に修得すべき看護技術項目の全てに対して看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んで下さい。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p>				
学 生 に 対 す る 価 値	<p>定期試験 80 点と提出物 20 点の合計点で評価します。なお、試験 6 割（48 点）以上、提出物 6 割（12 点）以上を取得した場合に合格となります。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。</p>				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	<p>①深井喜代子編：基礎看護技術 I、メヂカルフレンド社</p> <p>②任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、第 2 版、医学書院</p>				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	<p>・吉田みつ子・本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術、インターメディカ</p>				

科 目 名	看護共通技術Ⅱ				
担 当 教 員 名	齋藤 千秋・鈴木 朋子				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	1. コミュニケーションの基礎知識を理解し、看護場面における効果的なコミュニケーション技法について説明できる。 2. 紙上事例を用いて、科学的根拠を基に、対象者のニーズや看護上の問題を明らかにし、一連の問題解決型思考プロセスを展開できる。 3. 死の看取りにおける技術の目的、留意点、方法について説明できる。				
授 業 の 概 要	看護実践に必要なコミュニケーション技術、看護過程の展開技術、終末期における援助を学ぶ。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、コミュニケーション技術 2-4 コミュニケーション技術（面接のロールプレイ） 5 看護過程の展開技術、ゴードンの11の機能的健康パターン 6 アセスメント（パターン1） 7 アセスメント（パターン2・3） 8 アセスメント（パターン4・5） 9 アセスメント（パターン6・7・8） 10 アセスメント（パターン9・10・11） 11 看護問題の明確化、全体像 12 看護計画立案 13 実施・評価、看護記録 14 死の看取りの技術（悲嘆へのケア） 15 死の看取りの技術（死後のケア）				
授 業 の 留 意 点	提示された課題について個人学習をして授業に臨みましょう。 また、グループワークなどを通して、自分自身の考えを深めていけるようにしましょう。				
学 生 に 対 す る 価 値	定期試験70点と看護過程レポート20点および提出物10点の合計点で評価します。尚、試験6割（42点）以上、看護過程レポート6割（12点）以上、提出物6割（6点）以上を取得した場合に合格となります。 以上、試験、看護過程レポート、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	①渡邊トシ子編：ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント、第3版、ヌーベルヒロカワ ②深井喜代子編：基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社 ③任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、第2版、医学書院				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科目名	基礎看護技術 I				
担当教員名	畑瀬 智恵美・齋藤 千秋・岩田 直美				
学年配当	1年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	
学習到達目標	<p>1. 看護における環境調整の意義およびその援助方法について説明できる。</p> <p>2. 人間にとっての活動と休息の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。</p> <p>3. 人間にとっての栄養と食事の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。</p> <p>4. 環境調整、活動と休息、栄養と食事に関する基本的な看護技術を実施できる。</p>				
授業の概要	<p>看護の目的を達成させるための看護技術は、専門職としての能力の中核を成す。本講義においては、基本的な生活援助技術である環境調整、活動と休息、栄養と食生活の根拠を考えるとともに、その技術が提供される対象の臨床経過を考慮した援助方法を考え実践できるための基盤を学習する。</p>				
授業の計画	<p>1 オリエンテーション、環境調整技術</p> <p>2 環境調整技術</p> <p>3 活動・休息援助技術</p> <p>4 活動・休息援助技術・廃用症候群の予防（認定看護師）</p> <p>5-6 環境調整技術【演習】ベッドメイキング</p> <p>7 食生活と栄養摂取の技術</p> <p>8-9 食生活と栄養摂取の技術【演習】食事の援助・口腔ケア</p> <p>10-11 技術試験（ベッドメイキング）</p> <p>12-13 環境調整技術【演習】リネン交換</p> <p>14-15 活動・休息援助技術【演習】車椅子・ストレッチャーの移乗・移送</p>				
授業の留意点	<p>学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を修得していく必要があります。自己学習として、看護技術項目に対して看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んで下さい。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p>				
学生に対する評価	<p>定期試験 60 点、技術試験 20 点、と提出物 20 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（36 点）以上、技術試験 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（12 点）以上を取得した場合に合格となります。</p> <p>以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。</p>				
教科書（購入必須）	<p>①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社</p> <p>②深井喜代子編：基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社</p> <p>③任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、第2版、医学書院</p>				
参考書（購入任意）	<p>・吉田みつ子・本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術、インターメディカ</p>				

科 目 名	基礎看護技術Ⅱ				
担 当 教 員 名	齋藤 千秋・鈴木 朋子				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<p>1. 人間にとっての清潔・衣生活の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。</p> <p>2. 人間にとっての排泄の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。</p> <p>3. 清潔、排泄に関する基本的な看護技術を実施できる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>看護の目的を達成させるための看護技術は、専門職としての能力の中核を成す。本講義においては、基本的な生活援助技術である排泄、清潔の根拠を考えるとともに、その技術が提供される対象の臨床経過を考慮した援助方法を考え実践できるための基盤を学習する。</p>				
授 業 の 計 画	<p>1 オリエンテーション、清潔・衣生活の援助技術</p> <p>2-3 清潔・衣生活の援助技術【演習】洗髪</p> <p>4 清潔・衣生活の援助技術</p> <p>5-6 清潔・衣生活の援助技術【演習】全身清拭・寝衣交換</p> <p>7-8 清潔・衣生活の援助技術【演習】足浴</p> <p>9 排泄援助技術</p> <p>10 技術試験</p> <p>11-12 排泄援助技術【演習】ベッド上の排泄介助・おむつ交換・陰部洗浄</p> <p>13 排泄援助技術</p> <p>14-15 排泄援助技術【演習】導尿・浣腸</p>				
授 業 の 留 意 点	<p>学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を修得していく必要があります。自己学習として、看護技術項目に対して看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んで下さい。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p>				
学 生 に 対 す る 価 値	<p>定期試験 70 点、技術試験 20 点、提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（42 点）以上、技術試験 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（6 点）以上を取得した場合に合格となります。</p> <p>以上、試験、技術試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。</p>				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	<p>①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社</p> <p>②深井喜代子編：基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社</p> <p>③任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、第2版、医学書院</p>				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	<p>・吉田みつ子・本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術、インターメディカ</p>				

科 目 名	基礎看護技術Ⅲ				
担 当 教 員 名	齋藤 千秋・鈴木 朋子・岩田 直美				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	1. 診療に伴う援助技術における看護師の役割を説明できる。 2. 栄養、呼吸・循環、創傷管理 に関する看護技術について、安全・安楽を配慮した援助方法について説明できる。 3. 栄養、呼吸・循環、創傷管理 に関する看護技術を安全・安楽で確実に実施できる。 4. 紙上事例を用いて、看護過程を展開することができる。				
授 業 の 概 要	検査、診療を受ける看護の対象に、必要な基本的知識と援助技術、支援・相談的技術を講義・演習により修得する。基礎看護学実習Ⅱでの実践に向け、基本的な援助技術の科学的根拠を考えると共に、その技術が提供される対象の臨床経過を考慮した援助方法を考え、実践できる基盤を学習する。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、栄養摂取の援助技術 2-3 栄養摂取の援助技術 【演習】 経鼻胃チューブ経管栄養法 4 栄養摂取の援助技術・摂食嚥下障害看護 (認定看護師) 5 呼吸・循環を整える技術 6 呼吸・循環を整える技術 7-8 呼吸・循環を整える技術 【演習】 酸素吸入、気道内加湿法、口腔内・鼻腔内吸引、弾性ストッキング 9 創傷管理技術 10 創傷管理技術 【演習】 創傷処置、包帯法 11 創傷管理技術・褥瘡予防のためのケア (認定看護師) 12-15 看護過程演習(事例検討)				
授 業 の 留 意 点	学生個々が主体的な練習を繰り返して、看護技術を修得していく必要があります。自己学習として、修得すべき看護技術項目のすべてに対して、看護技術実践ノート(目的、実施内容・手順、根拠、留意点他)を作成して、演習に臨んでください。 看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。				
学 生 に 対 す る 価 値	定期試験 70 点、看護過程レポート 20 点、提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割(42 点)以上、看護過程レポート 6 割(12 点)以上、提出物 6 割(6 点)以上を取得した場合に合格となります。 以上、試験、看護過程レポート、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教 科 書 (購 入 必 須)	①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅱ、メチカルフレンド社 ②任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、医学書院				
参 考 書 (購 入 任 意)	・本庄恵子・吉田みつ子監修：写真でわかる臨床看護技術Ⅰ、インターメディカ ・高木永子監修：看護過程に沿った対象看護、第 4 版、学研 ・松尾ミヨ子・志自岐康子・城生弘美編：ヘルスアセスメント、メディカ出版				

科目名	基礎看護技術Ⅳ				
担当教員名	畑瀬 智恵美・鈴木 朋子・岩田 直美				
学年配当	2年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命の危機状態と救命救急処置の意義および看護師の役割を説明できる。</li> <li>2. 救命救急処置を確実に実施できる。</li> <li>3. 検査の基本的な知識および看護師の役割と検査時の看護における留意事項について説明できる。</li> <li>4. 血液検査の静脈血採血の基本的な知識を踏まえ、安全で確実に実施できる。</li> <li>5. 与薬に関する基本的な知識および看護師の役割、留意事項について説明できる。</li> <li>6. 注射法の基本的な知識を踏まえ、安全で確実に実施できる。</li> <li>7. 輸血法に関する基本的な知識および留意事項について説明できる。</li> </ol>				
授業の概要	検査、診療を受ける看護の対象に、身体侵襲の大きい援助技術を講義・演習により修得する。基本的な援助技術の科学的根拠を考えると共に、その技術が提供される対象の臨床経過を考慮した援助方法を考え、実践できる基盤を学習する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、救命救急処置</li> <li>2 救命救急処置 【演習】 (名寄消防署救急隊員)</li> <li>3 検査・治療に関わる技術 (検体の採取と扱い方、尿・便検査 他)</li> <li>4 検査・治療に関わる技術 (血液検査、血液検体の取り扱い)</li> <li>5-6 検査・治療に関わる技術 【演習】 静脈血採血</li> <li>7 与薬の技術 (薬理作用、薬物療法、経口与薬)</li> <li>8 与薬の技術 (外用薬の与薬法)</li> <li>9 与薬の技術 (皮下・皮内・筋肉内注射)</li> <li>10 与薬の技術 【演習】 注射器・注射針の取り扱い、薬剤の準備</li> <li>11-12 与薬の技術 【演習】 皮下・筋肉内注射</li> <li>13 与薬の技術 (静脈内注射・点滴静脈注射、輸血療法)</li> <li>14-15 与薬の技術 【演習】 静脈内注射・点滴静脈注射</li> </ol>				
授業の留意点	<p>学生個々が主体的な練習を繰り返して、看護技術を修得していく必要があります。自己学習として、修得すべき看護技術項目のすべてに対して、看護技術実践ノート(目的、実施内容・手順、根拠、留意点他)を作成して、演習に臨んでください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p>				
学生に対する評価	定期試験 90 点と提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割 (54 点) 以上、提出物 6 割 (6 点) 以上を取得した場合に合格となります。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教科書(購入必須)	<ol style="list-style-type: none"> <li>①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社</li> <li>②任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、医学書院</li> </ol>				
参考書(購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本庄恵子・吉田みつ子監修：写真でわかる臨床看護技術Ⅰ、インターメディカ</li> <li>・高木永子監修：看護過程に沿った対象看護、第4版、学研</li> <li>・松尾ミヨ子・志自岐康子・城生弘美編：ヘルスアセスメント、メディカ出版</li> </ul>				



科 目 名	ヘルスアセスメント				
担 当 教 員 名	畑瀬 智恵美・岩田 直美				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	1. ヘルスアセスメントの概念と意義について説明できる。 2. ヘルスアセスメントの一つであるフィジカルアセスメントの基本技術（問診・視診・触診・打診・聴診）について説明できる。 3. バイタルサインの基本的な知識と正確な測定方法について説明できる。 4. バイタルサイン測定を正確に実施できる。 5. 系統的フィジカルアセスメントの基本的な知識と方法について説明できる。 6. 系統的フィジカルアセスメントの方法を実施できる。				
授 業 の 概 要	ヘルスアセスメントとは、対象者が身体的に、心理・社会的に健康であるといえるかどうか、健康問題があるとすればその要因は何かを明らかにする行為である。フィジカルアセスメントの基本技術（問診・打診・聴診・視診・触診）と系統的な知識と技術を身につけて、具体的な看護援助を見い出していく必要がある。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、ヘルスアセスメントとは、フィジカルアセスメントにおける技術（問診・視診・触診・打診・聴診） 2-3 バイタルサイン測定（体温、脈拍、呼吸、血圧、意識） 4-5 バイタルサイン測定【演習】体温、脈拍、呼吸、血圧 6 系統的フィジカルアセスメント：呼吸器系 7 系統的フィジカルアセスメント：呼吸器系【演習】問診・視診・触診・打診・聴診 8 系統的フィジカルアセスメント：循環器系 9 系統的フィジカルアセスメント：循環器系【演習】問診・視診・触診・打診・聴診 10 系統的フィジカルアセスメント：腹部 11 系統的フィジカルアセスメント：腹部【演習】問診・視診・触診・打診・聴診 12 技術試験 13 系統的フィジカルアセスメント：皮膚・リンパ系、排泄系（認定看護師） 14 系統的フィジカルアセスメント：運動系・脳神経系（認定看護師） 15 系統的フィジカルアセスメント：感覚器系（認定看護師）				
授 業 の 留 意 点	学生個々が主体的に練習を繰り返して看護技術を修得していく必要があります。自己学習として、看護技術項目の全てに対して看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んで下さい。看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。				
学 生 に 対 す る 価 値	定期試験 70 点、技術試験 20 点、提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（42 点）以上、技術試験 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（6 点）以上を取得した場合に合格となります。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	①横山美樹：はじめてのフィジカルアセスメント、メチカルフレンド社 ②任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、医学書院				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	・田中裕二編：わかって身につくバイタルサイン、学研 ・藤野智子監修：基礎と臨床をつなげるバイタルサイン、学研 ・松尾ミヨ子・志自岐康子・城生弘美編：ヘルスアセスメント、メディカ出版 ・守田美奈子監修：写真わかる看護のためのフィジカルアセスメント、インターメディカ				

科 目 名	成人看護学概論				
担 当 教 員 名	長谷部 佳子・南山 祥子・本吉 美也子				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	個人としての成人期の身体的・精神的・社会的特徴、および集団としての国民衛生の動向について理解を深める。これらの知識と諸理論を活用しながら、成人を対象とした看護におけるアセスメント方法を習得する。				
授 業 の 概 要	ライフサイクルにおける成人の位置づけと、対象者を取り巻く生活環境、社会環境、保健医療情勢、および看護の礎となる概念や理論について講義を行う。グループワークなどの演習を通じて、学んだ知識を活かしたアセスメント方法を習得する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 成人看護学の位置づけと特徴、成人期にある人の特徴</li> <li>2 成人の生活と健康問題</li> <li>3 保健・医療・福祉システムの概要</li> <li>4 保健・医療・福祉システムの連携</li> <li>5 成人保健の動向（人口静態、人口動態）</li> <li>6 成人保健の動向（保健増進対策、感染症対策）</li> <li>7 成人看護学で用いる概念と理論①ニード論、ケアリング・アンドラゴジー、エパワメント</li> <li>8 成人看護学で用いる概念と理論②自己効力理論、危機理論、ストレス理論、セルフケア</li> <li>9 成人看護学で用いる概念と理論③ロイの適応モデル、死の受容理論、病みの軌跡</li> <li>10 先進医療と看護</li> <li>11 リハビリテーションと看護</li> <li>12 老年期に向かう過程での身体機能の変調</li> <li>13 終末期医療</li> <li>14 患者と家族への教育支援</li> <li>15 継続看護とチームアプローチ、看護における倫理および法的責任</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	成人期の対象者を看護する際には、対象者を取り巻く家族環境や社会・医療情勢など背景要因の分析が欠かせません。日頃から新聞などに目を通すとともに、両親や祖父母などの生活行動に高い関心を寄せると、講義内容の理解が深まります。				
学 生 に 対 す る 価 値	中間試験 10 点、定期試験 60 点、グループワーク/レポート 30 点				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論, 医学書院. 成人看護学概論 第2版, ヌーヴェルヒロカワ 厚生指針 増刊 国民衛生の動向, 厚生労働統計協会 (※公衆衛生学で最新版を購入済み)				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					

科目名	成人看護活動論 I				
担当教員名	長谷部 佳子				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	
学習到達目標	この講義科目では、周手術期を中心とした急性期から回復期までの過程における対象者理解と看護の役割、援助の方法について学ぶ。具体的には、手術療法および集中治療や検査にまつわる看護技術を理解するとともに、周手術期における対象者の健康問題を解決するための看護過程の展開方法について実践力を養うことを目標に掲げる。				
授業の概要	この科目は演習科目であるため、講義と演習を組み合わせながら進めていく。周手術期などでの急性期治療や検査に関する総論を学びながら、各論としての技術・観察方法の実際を演習で体験し、成人看護学概論や臨床治療学で得た知識との統合を図れるようにしている。そして、成人看護学活動論 I での学びを、実践的に成人看護学実習 I に活かせるように授業計画を組んでいる。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 今日の外科看護の特徴と課題、外科患者の病態の基礎</li> <li>2 外科的患者の病態の基礎、手術侵襲と生体反応</li> <li>3 外科的治療を支える分野①（麻酔方法、手術体位）</li> <li>4 外科的治療を支える分野②（体液・栄養管理、輸血等）</li> <li>5 外科的治療の実際（低侵襲手術）</li> <li>6 外科的治療の実際（術後合併症の予防のための看護）</li> <li>7 術前／検査前の看護 総論</li> <li>8 術後／検査後の看護 総論</li> <li>9 看護過程①（情報の分析）【演習】</li> <li>10 看護過程②（看護問題の抽出）【演習】</li> <li>11 看護過程③（看護計画の作成）【演習】</li> <li>12 看護過程④（看護計画の評価・修正）【演習】</li> <li>13 手術／検査を受ける対象者への看護①（輸液管理）</li> <li>14 手術／検査を受ける対象者への看護②（各種ドレーン管理）</li> <li>15 手術／検査を受ける対象者への看護③（心電図モニター）</li> <li>16 手術／検査を受ける対象者への看護④（全身の観察）</li> <li>17 手術／検査を受ける対象者への看護⑤（全身の観察）</li> <li>18 手術／検査を受ける対象者への看護⑥（全身の観察）</li> <li>19 手術／検査を受ける対象者への看護⑦（輸液管理の実際）</li> <li>20 手術／検査を受ける対象者への看護⑧（輸液管理の実際）</li> <li>21 手術／検査を受ける対象者への看護⑨（清潔ケアの実際）</li> <li>22 手術／検査を受ける対象者への看護⑩（清潔ケアの実際）</li> <li>23 手術／検査を受ける対象者への看護⑪（栄養管理の実際）</li> <li>24 手術／検査を受ける対象者への看護⑫（栄養管理の実際）</li> <li>25 手術／検査を受ける対象者への看護⑬（胸腔ドレナージおよび低圧持続吸引装置の取り扱い）</li> <li>26 手術／検査を受ける対象者への看護⑭（創部のケア、ストーマパウチ交換）</li> <li>27 手術／検査を受ける対象者への看護⑮（創部のケア、ストーマパウチ交換）</li> <li>28 手術／検査を受ける対象者への看護⑯（創部のケア、ストーマパウチ交換）</li> <li>29 手術中の看護①（手洗い、ガウンテクニック、滅菌手袋装着、等）</li> <li>30 手術中の看護②（手洗い、ガウンテクニック、滅菌手袋装着、等）</li> </ol>				
授業の留意点	すでに履修済みの専門基礎科目（特に人体形態学、人体機能学、臨床治療学 I）、専門科目（特に基礎看護学領域の各科目、成人看護学概論）で学んだ知識の活用が必要なので、それらを復習しておくことが望ましい。 また、本授業の際には指定された教科書 2冊を両方とも持参して、参加すること。				
学生に対する評価	レポート：30点、演習・演習の受講態度：10点、定期試験 60点				
教科書（購入必須）	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論、医学書院 新訂版 看護技術ベーシックス 第2版、サイオ出版 今日の治療薬 南江堂				
参考書（購入任意）	（臨床治療学 I で購入済） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3]循環器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10]運動器、医学書院				

科 目 名	成人看護活動論Ⅱ				
担 当 教 員 名	南山 祥子・本吉 美也子・中澤 洋子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	慢性的な健康障害をもつ人々とその家族の特徴を捉え、その人らしく生活するための自己管理や生活の再構築にむけた援助方法を理解することができる。さらに、ライフサイクル上の背景をふまえた看護過程の展開について理解することができる。				
授 業 の 概 要	慢性的な身体機能障害を持ちながら生活する人々とその家族が、症状をコントロールし、障害と生活の制限を受け入れながら健康的な生活を営むことを支える看護の役割、援助の方法について学ぶ。また、セルフケアを支援する観点から教育的アプローチや QOL を重視した支援についての知識と援助方法について学習する。				
授 業 の 計 画	1 慢性期看護 2 【演習】慢性疾患をもつ人の看護過程の展開① 3-4 呼吸機能障害をもつ人への看護①—気管支喘息など 5 呼吸機能障害をもつ人への看護②—慢性閉塞性肺疾患など 6 【演習】慢性疾患をもつ人の看護過程の展開② 7-8 栄養代謝機能障害をもつ人への看護①—糖尿病 9 栄養代謝機能障害をもつ人への看護②—糖尿病 10 栄養代謝機能障害をもつ人への看護③—慢性肝炎、肝硬変 11-12 【演習】慢性疾患をもつ人の看護過程の展開③ 13-14 脳・神経機能障害をもつ人への看護—脳梗塞、筋委縮性側索硬化症 15-16 【演習】慢性疾患をもつ人の看護過程の展開④ 17 内部環境調節機能障害をもつ人への看護①—慢性腎臓病（CKD）の病期に応じた看護 18 内部環境調節機能障害をもつ人への看護②—透析療法・腎移植を受ける人への看護 19-20 【演習】慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑤ 21-22 がん患者への看護①—がん患者の特徴 23 がん患者への看護②—がん患者の特徴 24 【演習】慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑥ 25-26 栄養代謝機能障害をもつ人への看護④ 【演習】 自己血糖測定 27 がん患者への看護③—化学療法・放射線療法を受ける患者の看護 28 講義のまとめ 29 がん患者への看護④—がん患者のケアについて～名寄市立総合病院化学療法認定看護師 30 がん患者への看護⑤—がん患者の緩和ケアについて～名寄市立総合病院緩和ケア認定看護師				
授 業 の 留 意 点	すでに履修済みの専門基礎科目（特に人体形態学、人体機能学、臨床治療学Ⅰ）、専門科目（特に基礎看護学領域の各科目、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ）で学んだ知識の活用が必要なので、それらを復習しておくことが望ましい。				
学 生 に 対 す る 価	看護過程 10 点、定期試験 90 点				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	鈴木志津枝、藤田佐和編集：－成人看護学－慢性期看護論 [第 3 版]、ヌーヴェルヒロカワ 江川 隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 [第 5 版]、ヌーヴェルヒロカワ 系統看護学講座 別巻 がん看護学、医学書院				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	(臨床治療学Ⅰで購入済) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7]脳神経、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器、医学書院				

科 目 名	老年看護学概論				
担 当 教 員 名	段 亜梅				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	1. 老年看護学の背景となる保健医療福祉の動向を理解する。 2. 老年期を生きる高齢者の時代背景およびその環境について理解を深める。 3. 高齢者と関わるための基礎的知識や技術を習得する。 4. 老年看護の役割と機能について理解する。				
授 業 の 概 要	高齢者と高齢者を取り巻く環境について統計的動向を通して理解を深め、高齢者に関連する保健・医療・福祉の現状と課題を社会的視点から学習する。ついで、高齢者の発達課題および加齢に伴う特徴と高齢者特有の健康課題について学習する。				
授 業 の 計 画	1 高齢者の理解 老年看護の基本 2 高齢社会の背景：人口動態、家族形態、介護の現状等 3 高齢者を支える社会保障：1) 医療保険制度について 4 2) 介護保険制度について 5 3) 高齢者を支える職種と活動の実際 6 加齢・老化の概念（身体・生理的側面） 7 加齢・老化の概念（心理/発達側面・社会的側面） 8 地域で生活している高齢者へのインタビュー 9 老年看護に役立つ理論・概念 10 高齢者の包括的アセスメント 1)高齢者の身体機能評価 2)知的機能評価 11-12 身体に加齢変化と生活機能への影響 高齢者疑似体験演習 13 エンドオブライフケア（最終局面の死） 14 高齢者の権利擁護（高齢者の虐待と抑制について） 15 高齢者看護の役割・特徴および今後の展望				
授 業 の 留 意 点	高齢者を理解するために 1)高齢者へのインタビューがある。 2)高齢者疑似体験（演習）を行う。				
学 生 に 対 す る 価	定期試験（60点）、演習・課題の取組状況（30点）、レポート（10点）で評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 北川 公子他 医学書院				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科目名	老年看護活動論 I				
担当教員名	段 亜梅・納谷 知里・上原 主義				
学年配当	2年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	
学習到達目標	高齢者の健康上の諸課題を理解するために、加齢変化や高齢者の特有な疾病に関する病態生理的特徴を学ぶことで、様々な健康状態下にある高齢者の看護に必要な専門知識と看護方法について理解できる。				
授業の概要	老年期におこりやすい疾患や障害の病態についての老年医学の基礎知識を学ぶことで、健康障害と生活障害を持つ高齢者の安全や自立した生活行動を支えるためのアセスメント方法や看護ケアの特徴についての理解が深まる。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 I 疾患・症状別高齢者の特徴とその看護 精神・神経疾患を持つ高齢者（脳血管障害、パーキンソン病）</li> <li>2 運動器の疾患を持つ高齢者（骨粗鬆症・骨折・転倒）</li> <li>3 循環器系の疾患を持つ高齢者（心不全、不整脈、高血圧症）</li> <li>4 呼吸器系の疾患を持つ高齢者（高齢者肺炎、閉塞性肺疾患）</li> <li>5 消化器系の疾患を持つ高齢者（胃癌、大腸癌）</li> <li>6 泌尿系の疾患を持つ高齢者（尿失禁、便秘、下痢等）</li> <li>7 内分泌・代謝系の疾患を持つ高齢者（糖尿病、水・電解質異常）</li> <li>8 皮膚の疾患を持つ高齢者（褥瘡・皮膚掻痒症等）</li> <li>9 感覚器の疾患を持つ高齢者（白内障、難聴、味覚障害）</li> <li>10 感染症を持つ高齢者（インフルエンザ、ノルウイルス感染症等）</li> <li>11 高齢者の熱中症と脱水症</li> <li>12 II 認知機能の障害を持つ高齢者とその看護 1) 認知症の病態</li> <li>13 2) 認知症ケア</li> <li>14 III 高齢者と薬（医療安全）</li> <li>15 IV 老年看護活動論 I まとめ</li> </ol>				
授業の留意点	人体形態学・病態学・人体機能学を授業前に予習すること。				
学生に対する評価	定期試験（70点）、課題の取組（20点）、レポート等（10点）で評価する。				
教科書（購入必須）	<ol style="list-style-type: none"> <li>①「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子他 医学書院（老年看護学概論で購入済み）</li> <li>②「生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図」山田律子/井出訓編 医学書院</li> <li>③「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論」佐々木英忠他 医学書院</li> </ol>				
参考書（購入任意）	随時、授業中に紹介する。				

科 目 名	老年看護活動論Ⅱ				
担 当 教 員 名	段 亜梅・納谷 知里・上原 主義				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<p>1. 高齢者の疾病と加齢変化に基づいた病態生理学に関する理解を深め、様々な健康状況下にある高齢者の生活行動や家族を支えるための安全・自立・倫理的配慮を考えた援助知識や技術について理解が深まる。</p> <p>2. 高齢者の身体的・精神的・社会的な特徴を考えた看護プロセス（看護過程）が展開できる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>主な日常生活行動（食事・移乗移動・コミュニケーション等）に関する援助技術の目的・方法・注意事項について演習を通して実践し、高齢者の健康上の諸課題を理解し解決する方法について学ぶ。また、紙上患者事例を用いた看護過程の展開方法について学ぶ。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 I 授業の導入</li> <li>2 II 加齢や障害をもつ高齢者のリハビリテーション看護</li> <li>3 2) 高齢者のレクリエーション援助技術①</li> <li>4-5 3) 運動障害（片麻痺および全介助）のある高齢者のアセスメントと看護（講義と演習）</li> <li>6 5) 高齢者のレクリエーション援助技術②演習</li> <li>7-8 6) 摂食・嚥下機能のアセスメントと看護援助技術（講義と演習）</li> <li>9-10 8) 高齢者のフィジカルアセスメント看護技術（模擬高齢患者参加型演習）</li> <li>11 III 老年看護過程の展開方法</li> <li>12 2) 老年看護過程の具体的展開方法</li> <li>13 ② 関連図・看護焦点（優先順位）の明確化</li> <li>14 ③ 看護計画の立案・実施・評価</li> <li>15 IV 他の実習記録の書き方／全体のまとめ</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	外部講師の都合により日程を変更する場合がある。				
学 生 に 対 す る 価 値	定期試験（50点）、課題の取り組み/看護過程（20点）、演習の参加/レポート（30点）で評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<p>「根拠と事故防止からみた 老年看護技術」亀井智子編 医学書院</p> <p>「生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図」山田律子/井出訓編 医学書院</p> <p>（老年看護活動論Ⅰで購入済みであるものは購入不要）</p>				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	随時、授業中に紹介する。				

科目名	小児看護学概論				
担当教員名	永谷 智恵				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	
学習到達目標	<p>1.小児看護の対象である小児と家族の存在を環境との相互作用から理解する  2.小児看護を支える法的根拠から小児医療における子どもの権利について理解する  3.成長・発達概念および小児各期の発達の特徴とその評価方法を理解する  4.現代の小児と家族の健康問題について社会の変化から捉え小児看護の役割を理解する  5.母子保健の動向と小児の健康を支える社会資源、制度について理解する</p>				
授業の概要	<p>現代の子どもや家族を取り巻く社会には、生活習慣病の増加、心の問題、育児不安、児童虐待など、様々な健康問題が顕在化している。本講義では、子どもや家族を取り巻く社会の現状を理解し、子どもの成長・発達段階における看護について学修するとともに、母子に関する様々な保健統計から小児保健の動向を知り、現代社会の健康問題を考察して、子どもの健康の保持増進、疾病の予防について学修する。合わせて、子どもの利益にかなう看護とは何か、子どもの基本的人権と小児看護倫理について考察して、小児看護の理念と責務について理解していく。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小児看護とは 小児看護の対象、小児の範囲と区分、小児の成長発達を支える家族と発達</li> <li>2 小児看護の歴史と意義、小児看護の課題、小児を取り巻く社会</li> <li>3 子どもの権利と看護、子どもの最善の利益にかなう医療と看護 小児看護と倫理的配慮</li> <li>4 小児看護と法律・施策、子どもを取り巻く社会環境、母子保健施策、小児に関する法律など</li> <li>5 子どもの成長発達 成長・発達の原理原則 影響要因</li> <li>6 乳児期の子どもの成長発達 形態的・機能的発達、心理社会的発達、ボウルビィ愛着理論</li> <li>7 乳児期の子どもの生活、家族への看護、乳児によくみられる健康問題</li> <li>8 幼児期の子どもの成長発達 形態的・機能的発達</li> <li>9 幼児期の子どもの成長発達 心理社会的発達 エリクソン自我発達理論</li> <li>10 幼児期の生活行動の発達と看護、遊びの意義、家族への看護、幼児期によくみられる健康問題</li> <li>11 学童期の子どもの成長発達 形態的・機能的発達・心理社会的発達、ピアジェの認知発達理論</li> <li>12 学童期の子どものセルフケアの発達と看護、学童期によくみられる健康問題</li> <li>13 思春期の子どもの成長発達 形態的発達・心理社会的発達 思春期によくみられる健康問題</li> <li>14 発育の評価 形態的成長の評価、心理社会的発達の評価</li> <li>15 小児看護学概論 まとめ</li> </ol>				
授業の留意点	<p>講義を中心に、自己学習や演習を組み合わせた授業展開をしていく。積極的な参加態度を期待します。  日ごろ、新聞・TV・映画・書籍などで子どもの生活や健康問題、自身の生い立ちや家族との関係、社会で起きている子どもに関する問題などに目を向けることで、本講義の学習がより深まります。</p>				
学生に対する評価	<p>定期試験：学習内容の理解度を評価する（70点）  小テスト：成長・発達の理解（各10点×3）</p>				
教科書（購入必須）	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院</p>				
参考書（購入任意）	<p>必要に応じて随時紹介する。</p>				



科 目 名	小児看護活動論 I				
担 当 教 員 名	永谷 智恵、佐々木 敏子				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	1. 健康障害や入院が小児と家族に与える影響について理解する 2. 急性期、慢性期、終末期の小児と家族の看護について理解する 3. 外来や在宅など場の違いによる看護を理解する 4. 障害のある小児と家族の看護について理解する				
授 業 の 概 要	健康問題や入院が小児と家族に与える影響を理解して、安全で安楽な生活を送ることが出来るようにケアしていくことが小児看護の中心である。本講義の中では、健康障害や入院そのものが小児や家族に与える影響、小児の病時期の違いによる必要とされるケア、外来や在宅など看護の場の違いにおける小児と家族の状況とケアについて学修していく。				
授 業 の 計 画	1 疾病・障害をもつ小児と家族の看護 疾病・障害が小児と家族に与える影響、小児の健康問題と看護 2 入院を必要とする小児と家族の看護 3 外来受診する小児と家族の看護 4 症状を呈する小児の看護 一般状態、痛み、呼吸困難、発熱 5 症状を呈する小児の看護 一般状態、痛み、呼吸困難、発熱 6 検査・処置を受ける小児と家族の看護 7 急性期にある小児と家族の看護 8 周手術期のある小児と家族の看護 9 慢性期にある小児と家族の看護（1） 10 慢性期にある小児と家族の看護（2） 11 在宅療養を行う小児と家族の看護 12 重症心身障害児の生活と支援 13 被虐待児と家族の看護 14 終末期にある小児と家族の看護（1） 15 終末期にある小児と家族の看護（2）				
授 業 の 留 意 点	講義や演習、自己学習を組み合わせた授業展開をしていく。積極的な参加態度を期待する。 DVDなどの視聴覚教材を取り入れて、小児の入院環境、在宅での生活などイメージ化できるようにしていく。				
学 生 に 対 す る 価	1. 定期試験 70点 2. 課題レポート 30点 講義中に課題を提示する				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	系統看護学講座 小児看護学概論 臨床看護総論 小児看護学① (医学書院)				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	子どもの地図帳 講談社				

科 目 名	小児看護活動論Ⅱ				
担 当 教 員 名	佐々木 俊子・永谷 智恵				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	1.小児で関わることの多い疾患（症状）の事例について、アセスメントし看護問題の明確化、看護計画の立案ができる。 2.小児特有の基本的な看護技術について習得することができる。 3.発達段階を考え状況に応じたプレパレーションができる。				
授 業 の 概 要	小児看護学概論・小児看護活動論Ⅰの学習を基に、健康障害のある小児と家族の看護展開技術、小児に特有な生活援助技術、診療に伴う援助技術について学修する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小児看護活動論Ⅱオリエンテーション</li> <li>2 看護過程の展開</li> <li>3 遊びの意義と実際</li> <li>4 プレパレーション、ロールプレイングの説明</li> <li>5 プレパレーション、ロールプレイングについて</li> <li>6 小児看護技術の演習について</li> <li>7 小児看護技術 / 看護過程の展開・プレパレーション準備</li> <li>8 小児看護技術 / 看護過程の展開・プレパレーション準備</li> <li>9 小児看護技術 / 看護過程の展開・プレパレーション準備</li> <li>10 小児看護技術 / 看護過程の展開・プレパレーション準備</li> <li>11 小児看護技術 / 看護過程の展開・プレパレーション準備</li> <li>12 小児看護技術 / 看護過程の展開・プレパレーション準備</li> <li>13 プレパレーションの実際（ロールプレイング）</li> <li>14 小児の看護過程のまとめ</li> <li>15 小児看護技術</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	事例の看護過程の展開・プレパレーションの準備と技術演習は、グループ毎交互に行われる。演習は、学習の進行状況により変更する場合がある。				
学 生 に 対 す る 価 評	1. 定期試験 70点 2. 看護過程 30点				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	小児看護学 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術（メディカ出版）				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	子どもの地図帳 講談社				

科 目 名	母性看護学概論				
担 当 教 員 名	笹木 葉子・加藤 千恵子				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母性の概念を、女性の生涯にわたる健康と権利の視点から捉える。</li> <li>・女性の健康を身体・心理社会・文化的視点から理解する。</li> <li>・母子関連組織・法律、母子保健システムから看護のあり方を学ぶ。</li> <li>・女性のライフステージ各期の特徴を学び、母性の一生を通じた健康の維持増進、疾病予防について学習する。</li> <li>・生命の尊重の意義を確認し自分なりの生命倫理を考える。</li> </ul>				
授 業 の 概 要	母性看護学の対象はすべての女性とその家族を含む。しかし少子化をはじめ、母性を巻き巻く環境は大きく変化してきている。そこでまず母性の概念、母子保健の変遷と統計指標、関連法規と施策、母子保健の現状と課題などから、母性の現状と課題について学習する。さらに女性のライフステージの特徴を知り、母性の一生を通じた健康の維持増進、疾病予防学習し、さらに生命倫理を内包した、現代の家族の変化の実情や医学情報のトピックスを紹介し、生命倫理や生命尊重について深く考えられるように解説する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 母性の中心となる概念</li> <li>2 母性看護実践を支える概念</li> <li>3 リプロダクティブヘルスに関する概念</li> <li>4 ヒトの発生・性分化のメカニズムと性意識の発達</li> <li>5 母子保健統計</li> <li>6 子どもと女性の保護と就労に関する法律に関する法律 子育て支援に関する制度・施策</li> <li>7 暴力・虐待の防止に関する法律と支援 命の大切さを考える</li> <li>8 母性看護実践における倫理的・法的・社会的課題</li> <li>9 最新科学が読み解く性</li> <li>10 生殖に関する生理</li> <li>11 生殖における健康問題と看護</li> <li>12 不妊症</li> <li>13 加齢とホルモン変化</li> <li>14 リプロダクティブヘルスケアー人工妊娠中絶と看護、性暴力を受けた女性に対する看護、喫煙女性の健康と看護</li> <li>15 周産期医療システム まとめ</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	授業に参加するにあたり、予習、復習を行うこと。GWには積極的に参加すること。DVD は、欠席した場合も後日必ず視聴すること。				
学 生 に 対 す る 価	GWやプレゼンテーション、提出物など授業参加態度（30 点）、試験（70 点）を総合して評価する。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	ナーシング・グラフィカ母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護（メディカ出版）				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	母子保健の主なる統計成 30 年度刊行：母子保健事業団，平成 31 年版厚生労働白書：厚生労働省編，平成 31 年度版少子化社会対策白書：内閣府編，国民衛生の動向 2018/2019：厚生労働統計協会				

科 目 名	母性看護活動論 I				
担 当 教 員 名	加藤 千恵子・渡邊 友香				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<p>本講義では、女性のライフサイクルの中で周産期の母子およびその家族を対象とする。          目的：妊産婦の主体性を重んじた安全で安楽な出産及び役割獲得への援助に必要な知識と看護技術を獲得する。          到達目標：          1 妊婦・産婦の身体的、心理的、社会的特徴を理解する。          2 妊婦・産婦の発達課題の達成、健康の保持増進、健康障害の予防に必要な母子看護の基礎知識を理解する。          3 対象が正常な妊娠、分娩経過をたどるために必要な看護技術を演習により習得する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>1. 妊娠・分娩経過の女性および胎児と新生児に必要な知識と看護技術を習得する。          1) 妊婦・産婦・胎児・新生児の身体的・心理社会的特徴から健康状態を観察する技術を学ぶ。          2) 母子の健康の保持・増進、健康障害の予防および健康障害からの回復を促す日常生活において必要なセルフケアとセルフケアを維持促進するための看護の方法を学ぶ。          3) 妊娠期、分娩期の母子事例を活用して、周産期の対象の身体的、心理的、社会的アセスメントの方法を習得し、対象の全体像を統合する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 妊娠期のアセスメント1, 妊娠の成立と経過（妊娠の定義, 妊娠の生理, 胎児の成長と発達）〔事例の紹介〕</li> <li>2 妊娠期のアセスメントとケア1, 妊婦の身体的特徴と妊娠期の変化妊娠各期と保健指導（健康管理の目的, 妊娠期の日常生活, 栄養管理, 乳房の手当）</li> <li>3 妊娠期のアセスメントとケア2, 妊婦の心理的特徴と妊娠期の変化</li> <li>4 妊娠各期の胎児の成長と発達</li> <li>5 &lt;演習1&gt; 妊娠期のケア：子宮底・腹囲測定, レオポルド触診法, 妊産婦体操, 疑似体験 分娩期のアセスメントとケア（分娩が胎児に与える影響, 胎児の健康状態の把握）</li> <li>6 ハイリスク妊娠と看護（妊娠悪阻, 胎状奇胎, 妊娠高血圧症候群, 切迫流産, 前置胎盤, 常位胎盤早期剥離）</li> <li>7 妊婦の健康教育と育児準備サポート, 出産準備教育</li> <li>8 分娩期のアセスメント1, 分娩の経過（分娩の定義, 分娩の三要素と分娩機序, 分娩経過）分娩期にある母子の理解,（分娩のメカニズム, 心理・社会的状況の理解）〔分娩の視聴覚教材〕</li> <li>9 分娩期のアセスメントとケア1,（産痛のメカニズムと緩和方法, 産婦の心理, 家族への包括的援助）</li> <li>10 分娩期の胎児の健康状態</li> <li>11 分娩期の母体と胎児のための安全安楽を考えたケア</li> <li>12 分娩室における各スタッフの役割分担と衛生管理および物品管理</li> <li>13 &lt;演習2&gt; 分娩期のケア：呼吸法, 弛緩法, 産婦の安全・安楽と主体性を育むための看護</li> <li>14 ハイリスク分娩の看護（微弱陣痛・過強陣痛, 分娩時異常出血, 帝王切開）</li> <li>15 妊産婦の健康管理のまとめ</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	<p>妊娠期と分娩期の学習ノートを作成する。          受講に際して、教科書を読むなど予習および復習を行うこと。          授業態度として、講義、演習ともに真摯な姿勢で積極的に臨むこと。</p>				
学 生 に 対 す る 価 評	<p>演習の2回の参加は必修とする。          学習ノートの作成（20点）、ミニ模試（10点）とテスト（70点）で知識とアセスメント能力について評価する。</p>				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<p>（母性看護活動論Ⅱと共通）          ・系統看護学講座 専門Ⅱ母性看護学各論 母性看護学2 森恵美（医学書院）          ・ナーシンググラフィカ 母性看護技術 荒木奈緒ら（メディカ出版）</p>				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	<p>・カラー写真で学ぶ妊産婦褥婦のケア 第二版 櫛引美代子（医歯薬出版株式会社）          ・根拠と事故防止からみた          ・新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ 前原 澄子（編集）（中央法規出版）母性看護技術 第二版 石村由利子（医学書院）          ・新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅱ 前原 澄子（編集）（中央法規出版）</p>				

科目名	母性看護活動論Ⅱ				
担当教員名	笹木 葉子・渡邊 友香				
学年配当	3年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	
学習到達目標	<p>1. 妊娠期・分娩期の既習の知識を基に、産褥期、新生児期にある母子とその家族の身体・心理社会的特性を理解できる。</p> <p>2. 産褥・新生児期にある母子への看護援助を行うために必要とされる基礎的知識と技術を習得できる。</p> <p>3. 産褥・新生児期における主な異常とその看護を理解できる。</p> <p>4. 産褥・新生児期の母子関係確立のための援助に必要な知識と技術を習得できる。</p>				
授業の概要	<p>母性看護活動論Ⅰで学習した妊娠期・分娩期の援助を踏まえて褥婦および新生児とその家族の特性を理解する。産褥期では分娩の影響からの心身の回復と母親役割獲得へのケアおよび産褥の異常を持つ産婦のケアについて学ぶ。新生児については胎外生活への適応と生理的变化、正常からの逸脱時のケアについて学習する。母子の健康の保持増進・回復を促すためのセルフケアの方法および逸脱徴候を早期に発見できるための観察方法を習得する。母児一対を対象として、母子関係形成のためのケアの重要性を理解する。褥婦・新生児の看護過程では、ウエ</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 正常な産褥の基本的理解：産褥の定義、褥婦の全身の変化、進行性変化、退行性変化、心理・社会的変化</li> <li>2 産褥期のアセスメント：退行性変化、進行性変化、身体の回復状態家族の機能と役割の再編、サポート体制</li> <li>3 褥婦と家族のケア：セルフケアを高めるケア、母乳育児に向けてのケア、育児技術に関わるケア、家族関係再構築へのケア</li> <li>4 褥婦と家族のケア：母子関係確立への援助、母親役割、家族役割関係、産後のメンタルヘルスケア、産後の母子保健施策</li> <li>5 異常産褥の病態と看護：子宮復古不全、産褥感染症、精神障害、母子分離・死産</li> <li>6 &lt;演習 1&gt; 産褥期のケア：子宮復古状態の観察とケア 乳房観察とケア、産褥体操</li> <li>7 正常新生児の基本的理解：新生児の定義、胎外生活への適応過程、新生児の生理的变化、成熟度の評価</li> <li>8 新生児のアセスメント：出生直後の状態、体格、哺乳状態、栄養状態、親子関係、家族関係、</li> <li>9 新生児のケア：看護の原則、保育環境、出生直後の看護、日常生活への援助、栄養</li> <li>10 異常新生児の病態と看護：新生児仮死、分娩障害、高ビリルビン血症、低出生体重児、ディベロップメンタルケア</li> <li>11 &lt;演習 2&gt; 新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開</li> <li>12 &lt;演習 2&gt; 新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開</li> <li>13 &lt;演習 2&gt; 新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開</li> <li>14 &lt;演習 2&gt; 新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開</li> <li>15 褥婦・新生児の看護過程、学習ノートの提出 まとめ</li> </ol>				
授業の留意点	<p>講義は、テキスト・資料を読んで予習・復習をすること。</p> <p>演習は講義内容を復習しテキストにて技術手順を確認して臨むこと。</p> <p>看護過程は参考書を利用しウェルネス思考を取り入れて展開すること。</p> <p>配布する学習ノート（産褥・新生時期）は教科書・参考書を利用して完成させること。</p>				
学生に対する評価	演習への参加態度 10点 ミニレポート・学習ノート 10点 看護過程 10点 試験 70点				
教科書（購入必須）	<p>（母性看護活動論Ⅰと共通）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 森恵美（医学書院）</li> <li>・ナーシンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術（メディカ出版）</li> <li>・ウェルネス診断にもとづく母性看護過程 太田操編（医歯薬出版株式会社）</li> </ul>				
参考書（購入任意）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気がみえる VOL10 産科 第3版（メディックメディア）</li> <li>・新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ・Ⅱ 前原澄子（中央法規出版）</li> </ul>				

科 目 名	精神看護学概論				
担 当 教 員 名	結城 佳子				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	精神疾患および精神障害を持つ人を対象とする看護についての基本的考え方を理解し、精神科医療および精神保健福祉の課題に問題意識を持って取り組む姿勢を習得することを目標とする。				
授 業 の 概 要	<p>1. 精神看護学とは何か、その基本的考え方を学ぶ。</p> <p>2. 人のことに関する諸理論、ライフサイクルと生活の場について精神保健の視点から学ぶ。</p> <p>3. 精神保健福祉活動の実際とそれを支える法・制度のあり方、精神保健福祉の歴史を学ぶ。</p> <p>4. 精神科医療および精神保健福祉における人権と倫理について学ぶ。</p> <p>時事の問題や具体的な事例等を多く取り入れて講義を展開し、精神科医療および精神保健福祉における看護職のあり方をより具体的に学ぶ。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション/心とは</li> <li>2 健康な心とは</li> <li>3 心を感じる/心にふれる</li> <li>4 生活の場と精神保健① 家庭</li> <li>5 生活の場と精神保健② 学校</li> <li>6 生活の場と精神保健③ 職場</li> <li>7 生涯発達と精神保健① 乳児期～青年期</li> <li>8 生涯発達と精神保健② 成人期～老年期</li> <li>9 社会と精神保健① ストレス</li> <li>10 社会と精神保健② 危機</li> <li>11 社会と精神保健③ 自殺</li> <li>12 精神障害と精神保健① 精神疾患と精神障害/統合失調症</li> <li>13 精神障害と精神保健② 精神保健福祉の変遷と法/人権擁護</li> <li>14 精神障害と精神保健③ 地域精神保健福祉活動</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	積極的に授業へ参加することを期待する。精神保健福祉を取り巻く社会の動向にも関心を持ち、自ら考える姿勢が望ましい。授業の進行状況、時事問題によって講義内容を変更することがある。				
学 生 に 対 す る 価 評	レポートにより評価する。レポートは以下の5段階で評価する。 S：素点90点以上、A：素点80～89点、B：素点70～79点、C：60～69点、D：59点以下 C以上の評価について単位を認定する。D評価の者は課題再提出とし、同様に評価する。なお、学習の進行状況によりレポート課題を課すことがある。その場合の評価も同様に行う。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	テキストは使用せず、資料を配布する。				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	参考文献は、必要時指示する。				

科目名	精神看護活動論 I				
担当教員名	結城 佳子				
学年配当	3年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	前期	必修選択	必修	資格要件	
学習到達目標	精神疾患および精神障害を持つ人の病態や障害のありようとそれらが生活に与える影響、治療およびリハビリテーションについて理解し、精神健康上の問題に直面している人とその家族に対する看護援助方法について基本的考え方を習得することを目標とする。				
授業の概要	1.基本的な精神疾患および精神障害を持つ人の病態・障害のありようとそれらが生活に与える影響を学ぶ。 2.精神疾患および精神障害を持つ人への治療およびリハビリテーションと基本的な看護援助方法を学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション/気分障害① 概念と病態</li> <li>2 気分障害② 治療とリハビリテーション</li> <li>3 気分障害③ 看護</li> <li>4 不安障害① 概念と病態</li> <li>5 不安障害② 治療と看護</li> <li>6 身体表現性障害/解離性障害/適応障害① 概念と病態</li> <li>7 身体表現性障害/解離性障害/適応障害② 治療と看護</li> <li>8 中間まとめ</li> <li>9 摂食障害① 概念と病態</li> <li>10 摂食障害② 治療と看護</li> <li>11 パーソナリティ障害① 概念と病態</li> <li>12 パーソナリティ障害② 対応と看護</li> <li>13 物質関連障害① 概念と病態</li> <li>14 物質関連障害② 治療と看護</li> <li>15 自閉症スペクトラム障害</li> </ol>				
授業の留意点	具体的な事例等を通して、精神疾患・精神障害を適切に理解するとともに、精神疾患・精神障害を持つ人の生きる困難さや苦悩を共に感じ、看護援助の展開について主体的に考えてみることを期待する。授業の進行状況、時事問題によって講義内容を変更することがある。				
学生に対する評価	筆記試験により評価する。素点 60 点以上の者について単位認定する。D 評価の者は再試験とし、同様に評価する。なお、学習の進行状況により中間試験を実施することがある。その場合の評価も同様に行う。				
教科書（購入必須）	テキストは使用せず、資料を配布する。				
参考書（購入任意）	必要時指示する。				

科目名	精神看護活動論Ⅱ				
担当教員名	結城 佳子				
学年配当	3年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	
学習到達目標	精神疾患および精神障害を持つ人の病態や障害のありようとそれらが生活に与える影響、治療およびリハビリテーションについて理解し、精神健康上の問題に直面している人とその家族に対する看護援助方法と看護過程の展開について基本的考え方を習得する。また、精神科領域における治療・看護について理解し、対象者の安全を守り、人権を擁護する看護のあり方を学ぶ。				
授業の概要	1.統合失調症や認知症について疾患・障害のありようと生活に与える影響、治療や看護について学ぶ。 2.精神科領域に特有の治療およびリハビリテーションと看護について学ぶ。 3.精神科領域における安全管理、法・制度、人権と倫理について学ぶ。 4.精神科看護の実践について、ゲストスピーカーによる講義から学ぶ。				
授業の計画	1 統合失調症① 概念と病態 2 統合失調症② 治療と看護（救急急性期～消耗期） 3 統合失調症③ 治療と看護（回復期） 4 認知症 5 精神科における治療と看護① 薬物療法/電気けいれん療法他 6 精神科領域における治療と看護② 心理療法 7 精神科領域における治療と看護③ 精神科リハビリテーション 8 精神科領域における治療と看護④ 当事者活動とリカバリー 9 精神科領域における医療安全・危機管理 10 精神科領域における法と制度 11 精神科看護における人権と倫理 12 精神科看護における自己理解・自己活用/プロセスレコードの活用 13 精神科看護の実践① 救急急性期看護 14 精神科看護の実践② 精神科訪問看護 15 精神科看護の実践③ 就労支援				
授業の留意点	精神科看護の実践に不可欠な知識・技術を学ぶとともに、精神障害者を取り巻く社会のありようを理解するため、主体的に考える姿勢を求め。授業の進行状況、時事問題によって講義内容を変更することがある。				
学生に対する評価	筆記試験により評価する。素点 60 点以上の者について単位認定する。D 評価の者は再試験とし、同様に評価する。なお、学習の進行状況により中間試験を実施することがある。その場合の評価も同様に行う。				
教科書（購入必須）	テキストは使用せず、資料を配布する。				
参考書（購入任意）	必要時指示する。				



科 目 名	基礎看護学実習 I				
担 当 教 員 名	齋藤 千秋・畑瀬 智恵美・鈴木 朋子・岩田 直美				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院の役割・機能、医療の場で働く看護師および他職種の専門職としての役割を理解する。</li> <li>2. 対象者とのかかわりを通して、入院生活の過ごし方について知り、健康時の日常生活との相違や困難さについて理解する。</li> <li>3. 対象者への援助を通して、健康の回復・維持・増進のために必要な看護援助を根拠に基づいて行う必要性を理解する。</li> <li>4. 看護学生として、チームの一員としての責任を自覚し、自立した行動をする。</li> <li>5. 実習体験をもとに、自己の看護観および看護の目的・役割について再考する。</li> </ol>				
授 業 の 概 要	看護に関する既習の知識・技術を活用して、健康障害をもつ人と関わりあいながら、医療機関で療養生活を送る対象者の日常生活維持向上・健康上の問題解決に向けた看護援助を考える。さらに、看護師の援助活動への参加や見学を通して、臨床における看護の視点に沿った対象理解と看護実践に必要な基礎的能力を養う。				
授 業 の 計 画	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設内を見学し、主要部署とその役割について説明を受ける。</li> <li>2. 実習病院の特徴や看護部の方針等についてオリエンテーションを受ける。</li> <li>3. 療養環境について、病棟の見学とオリエンテーションを受ける。</li> <li>4. 看護援助の実践に際しては、看護師・教員の説明や助言のもとに行う。</li> <li>5. カンファレンスで学習内容を整理し、学びを共有する。</li> <li>6. 学内演習では体験や学びを共有し、学びをまとめ、自己の課題を明確にする。</li> </ol> <p>詳細は、実習要綱を参照</p> <p>※実習目標に基づき、臨地実習4日間、学内演習1日間の計画を予定している。</p> <p>※詳細な実習計画・資料等は、実習開始前オリエンテーションで説明する。</p> <p>※実習開始前オリエンテーションを受けることは、実習において必修条件である。</p>				
授 業 の 留 意 点	<p>本授業科目は、看護学生とし医療の現場で体験的に学ぶ学習であるので、医療の現場で学ぶ者として自覚を持ち、対象や医療従事者の信頼を得られる行動を心がけ実習することが必要である。</p> <p>実習課題到達のためには、実習オリエンテーションに出席すること・事前学習が必要である点を十分認識して実習に臨むことが求められる。</p> <p>本科目の先修要件は、看護学概論、看護技術論、看護共通技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅰの単位修得、ヘルスアセスメント、看護共通技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅱの単位修得見込みである。</p>				
学 生 に 対 す る 価 値	実習要項の評価方法に準ずる。尚、認定要件は実習記録一式が期限内に提出されることを前提とする。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	実習要項や必要な実習課題提出記録用紙等の関係資料は実習前に配布されるので、各自が既習科目の教科書を活用し、必要な事前準備を行うこと。				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	配布資料・実習先に応じた参考文献は随時提示する。				

科目名	基礎看護学実習Ⅱ				
担当教員名	畑瀬 智恵美・齋藤 千秋・鈴木 朋子・岩田 直美				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	実習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象を理解するための情報収集、科学的根拠に基づき分析・解釈（アセスメント）することができる。</li> <li>2. アセスメントを基に、対象の看護問題を抽出、明確化、対象に必要な具体的かつ個別性のある看護計画を立案することができる。</li> <li>3. 立案した看護計画を安全、安楽、自立を考慮した看護を実践できる。</li> <li>4. 医療チームの一員として、看護師の役割および医療・福祉チームにおける連携・協働について学ぶことができる。</li> <li>5. 看護の専門性、学問を探究する学習者として自己洞察し、今後の学習課題を明確に述べるることができる。</li> </ol>				
授業の概要	<p>基礎看護学実習Ⅰで学習した看護の対象、療養環境、人間関係を形成するためのコミュニケーション、看護援助をもとに、対象に必要な看護を理解し、その対象の看護問題（健康問題）を解決するための看護過程を展開する。また、看護過程の展開と同時に問題解決思考能力を養う。</p>				
授業の計画	<p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 実習目標に基づき、実習期間は2週間を予定している。</li> <li>* 実習場所は名寄市内にある名寄市立総合病院、名寄三愛病院、名寄東病院である。</li> <li>* 成人期・老年期にある患者を1名受け持ち、看護過程を展開する。</li> <li>* 対象患者に実習依頼し、受け持つことに同意と署名を受ける。</li> <li>* 学生が立案した看護計画に基づいて実施する援助は、主に生活援助技術である。</li> </ul> <p>詳細は、実習要項を参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 詳細な実習計画・資料等は、実習開始オリエンテーションで説明する</li> <li>* 実習開始前オリエンテーションを受けることは、実習において必須条件である。</li> </ul>				
授業の留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習科目（専門基礎科目、専門科目）および看護過程の学習したことを復習し、実習に臨んでください。また、実習で体験する内容について事前学習を十分行ってください。</li> <li>2. 看護実践を通じて専門職業人を目指す看護学生としての責任を自覚し、看護の学習者として、主体的、自律的、真摯な姿勢で臨んでください。</li> <li>3. 本科目の先修要件は、基礎看護学実習Ⅰの単位を修得していることである。基礎看護技術Ⅲについては、単位修得見込みである。</li> </ol>				
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準ずる。尚、認定要件は、実習記録一式が期限内に提出されたことを前提とする。				
教科書（購入必須）	既習科目（専門基礎科目、専門科目）および1年次に既習の教科書、参考図書、授業資料、その他全てを活用する。				
参考書（購入任意）	配布資料・実習先に応じた参考文献は随時提示する。				

科 目 名	成人看護学実習 I				
担 当 教 員 名	長谷部 佳子 南山 祥子 本吉 美也子 中澤 洋子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	3 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	周手術期にある成人期の患者とその家族に対する看護を、看護過程の展開を通して実践し、看護に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。健康障害の急性期にある対象を全人的にとらえ、外科的療法によってもたらされる心身への侵襲を最小限にとどめ、回復するための看護援助の実践を学ぶ。さらに、看護の継続性を学ぶとともに、関係職種間の連携と協働について理解を深め、看護職者として主体的に取り組む姿勢を学ぶ。				
授 業 の 概 要	周手術期にある患者を受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより対象の理解を深め、看護計画の立案、実施、評価をする。外科的療法を受ける患者への看護援助の実施、看護の継続性、関係職種間の連携と協働、看護職者としての姿勢を学ぶ。				
授 業 の 計 画	<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期にある患者の健康課題を把握し、個別的な計画を立て、実践、評価することができる。</li> <li>2. 健康障害が患者および家族に及ぼす生活の変化を理解した援助的人間関係を形成することができる。</li> <li>3. 急性期から回復期に至る対象とその家族に対し、生活の視点から回復促進のための働きかけができる。</li> <li>4. 保健医療福祉チームの一員としてその役割を理解し、看護の継続性、関係職種間の連携・協働について理解することができる。</li> <li>5. 看護学生として責任ある行動をとることができる。</li> </ol> <p>実習内容 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。</p> <p>実習方法 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。</p> <p>実習場所 名寄市立総合病院</p> <p>実習期間 3 週間</p>				
授 業 の 留 意 点	学内ですでに学習している専門基礎科目、専門科目（特に成人看護活動論 I）で学んだ知識・技術の活用が必要となるので、それらを復習するとともに、実習で体験する内容について事前学習を十分行って実習に臨んでください。				
学 生 に 対 す る 価 評	実習要項の評価方法に準じる。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )					
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	藤野彰子・長谷部佳子（編著）「看護技術ベーシック」サイオ出版				

科 目 名	成人看護学実習Ⅱ				
担 当 教 員 名	長谷部 佳子 南山 祥子 本吉 美也子 中澤 洋子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	3単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	慢性的な健康障害をもつ成人期の患者を受け持ち、看護過程を展開し、その看護実践を通して疾病や障害あるいは死を受容し、自己管理や生活の再構築、その人らしく過ごせるような支援の実際を学ぶことができる。さらに看護の継続性、関係職種との連携と協働の実際について理解することができる。				
授 業 の 概 要	健康障害の慢性期にある成人期の患者を1名受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより対象の理解を深め、看護計画の立案、実施、評価をする。そのなかで、疾病や障害あるいは死を受容し、自己管理や生活の再構築、その人らしい生き方を支えるための看護の実際を学ぶ。また、看護の継続性を学ぶとともに、関係職種間の連携と協働について理解を深め、看護職者として主体的に取り組む姿勢を学ぶ。				
授 業 の 計 画	<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康障害の慢性期にある患者の健康課題を把握し、個別的な計画を立て、実践、評価することができる。</li> <li>2. 人間関係の重要性を認識し、健康障害の慢性期にある患者とその家族の心理的状态に応じた関わりをもつことができる。</li> <li>3. 患者とその家族がその人らしく過ごせるように、生活の視点から教育指導を含む支援活動を考え、実践することができる。</li> <li>4. 社会復帰に向けて、必要な保健医療・福祉サービスなど関係職種との連携・協働について理解することができる。</li> <li>5. 看護学生として責任ある行動をとることができる。</li> </ol> <p>実習内容 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。</p> <p>実習方法 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。</p> <p>実習場所 名寄市立総合病院・名寄三愛病院</p> <p>実習期間 3週間</p>				
授 業 の 留 意 点	学内ですでに学習している専門基礎科目、専門科目（特に成人看護活動論Ⅱ）で学んだ知識・技術の活用が必要となるので、それらを復習するとともに、実習で体験する内容について事前学習を十分行って実習に臨んでください。				
学 生 に 対 す る 価 値	実習要項の評価方法に準ずる。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )					
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					

科 目 名	老年看護学実習				
担 当 教 員 名	段 亜梅・納谷 知里・上原 主義				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	4 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<p>1. 老いと病による障害を持ちながら、自己の力を最大限に活用しながら生活している高齢者の理解を深めることができる。</p> <p>2. 高齢者個人の老いと病から引き起こされる身体的・精神的・社会的変化に対して、既存の知識・技術と結びつけながら アセスメントし、看護計画・実践・評価の過程を効果的に展開できる。</p> <p>3. 高齢者対象にした保健医療福祉システムの現状を理解し、保健医療福祉の連携と看護の役割について建設的に考えることができる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>高齢者は医療施設だけでなく、保健福祉施設から在宅などさまざまな場で生活している。多様な健康状況下にある高齢者の特性を理解し、学内で学んだ知識・技術、専門職としての態度と倫理観を看護実践の場において統合的に応用する。</p>				
授 業 の 計 画	<p>実習方法 老年看護学実習は、グループホーム実習 1 単位と通所サービス実習 1 単位を組み入れた計 2 単位、病院・施設主体の実習 2 単位で構成される。</p> <p>1. 実習目標・計画等の詳細は「老年看護学実習要項」として別途説明・配布する。</p> <p>2. グループホーム、通所サービス実習(2 週間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域密着型施設を利用している高齢者とかかわりながら、グループホームや在宅生活維持に向けた生活のありようについて学ぶ。さらに、高齢者の健康の維持・増進の取り組みと連携について学ぶ。</li> <li>・認知症高齢者の心身状態と生活上の困難に対応する看護の特徴について学ぶ。</li> </ul> <p>3. 病院・施設実習 (2 週間)</p> <p>1 名の患者/利用者を受け持って、看護過程を展開しながら看護の実践や評価を行う。受け持ち患者/利用者は 65 歳以上の健康障害や生活に支障のある者を予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 実習場所</li> <li>* 事前ガイダンスや課題があります</li> </ul>				
授 業 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は老年看護学概論、老年看護活動論 I・II の単位を取得していなければ履修できない。</li> <li>・インフルエンザワクチン接種の要請を受ける場合がある。罹患の場合は実習中断となる。</li> <li>・健康管理に留意すること。</li> </ul>				
学 生 に 対 す る 価	実習要項の評価方法に準ずる。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )					
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					

科 目 名	小児看護学実習				
担 当 教 員 名	佐々木 俊子・永谷 智恵				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	1. 保育所実習を通して、成長発達に応じた日常生活、遊びの支援ができる。 2. 小児看護における外来看護の役割を理解できる。 3. 入院している小児とその家族の看護問題を明らかにできる。 4. 発達段階や個別性を考慮した看護ケアを考え実施できる。 5. 小児看護における看護職の責務を考察できる。 6. 障害を持っている子ども（成人）の日常生活を理解して必要とされる看護を理解できる。				
授 業 の 概 要	保育所実習では、指導保育士と共に子どもの日常生活、遊びの実際を体験する。 外来受診および入院している小児とその家族を看護する病棟実習では、既習の知識・技術を基に、看護ケアの計画立案・実施・評価のプロセスを体験し小児看護の実際を学ぶ。 療育園では、主に見学実習であるが、実習指導者の指導を受けながら、日常生活の援助やコミュニケーションを通して利用者との関わり、必要とされる看護を考えていく。				
授 業 の 計 画	別途配付する「小児看護学実習要項」に基づいて学内オリエンテーションを行い実習を進める。  実習内容				
授 業 の 留 意 点	感冒や感染症の疑い・発症などは必ず報告してください。感染源・媒介の危険性がある場合は実習中止となる。予防接種の履行および日常生活・健康の管理に留意すること。 実習前には各自、既習の知識・技術の確認を行い、準備を整えて実習に臨むこと。				
学 生 に 対 す る 価 値	実習要項の評価方法に準ずる。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )					
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	子どもの地図帳 講談社				

科 目 名	母性看護学実習				
担 当 教 員 名	笹木 葉子・加藤 千恵子・渡邊 友香				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<p>女性およびその家族を対象として、母性の健全な成長発達を促し、健康の維持・増進、発達課題の達成を促すための看護方法を学び、母性看護の役割について考える。</p> <p>1) 妊娠、分娩、産褥期における女性の特性を身体的、心理的、社会的側面から理解し、各期の過程に影響する要因を学ぶ。  2) 母性意識の育成および母子関係、家族関係成立にむけての支援を学ぶ。  3) 妊産褥婦がセルフケア行動や養育行動を獲得していく過程の支援を学ぶ。  4) 新生児の生活を整える働きかけを通して、新生児が胎外生活に適応していく過程を学ぶ。  5) 生命の尊厳性</p>				
授 業 の 概 要	<p>1) 妊娠・分娩・産褥期にある母子を受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより発達課題や発達危機、健康状態を把握し、母子の健康を維持促進するために必要な看護実践の基礎的知識・技術・態度を学ぶ。  2) 産後、地域で生活する褥婦及び新生児の健康状態および地域が抱える課題について学ぶ。  3) 地域における母子保健活動の実際を学ぶ。</p>				
授 業 の 計 画	<p>実習内容</p> <p>周産期からの母性看護の対象が訪れる施設と地域を理解する。また、実習中に関わる1事例以上の対象の特性を理解し、看護過程のアセスメントを通して看護の方法を学ぶ。</p> <p>実習方法</p> <p>1) 実習場所（4か所）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名寄市立総合病院3階西病棟、名寄市立総合病院産婦人科外来、野口母乳育児相談室、名寄市立大学タッチケアサロン</li> </ul> <p>1グループ：1週間単位で病棟・分娩参加見学チームと外来・地域母子保健活動チームで交替する（1G8名）</p> <p>2) 実習内容</p> <p>(1) 周産期母子実習（病棟）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・褥婦と新生児の看護：1例受持ち</li> <li>・産婦の看護は参加見学</li> </ul> <p>(2) 産婦人科外来実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦健康診査・保健指導の見学及び一部実施（1例以上）</li> <li>・地域母子保健活動実習（タッチケアサロン、母乳育児相談等）の参加見学</li> </ul> <p>実習期間 2週間</p>				
授 業 の 留 意 点	母性看護学概論、母性看護活動論Ⅰ、母性看護活動論Ⅱをすべて履修済であること。事前に配布する実習要項、特に達成目標を読み、事前学習を行い、活動論Ⅰ・Ⅱで作成した学習ノートを、実習で活用すること。				
学 生 に 対 す る 価 値	実習方法の評価方法に準ずる。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門Ⅱ母性看護学概論 母性看護学 1 森恵美（医学書院）</li> <li>・系統看護学講座 専門Ⅱ母性看護学概論 母性看護学 2 森恵美（医学書院）</li> <li>・写真でわかる母性看護技術アドバンス 平澤美恵子（インターメディカ）</li> <li>・ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第2版 太田操（医歯薬出版）</li> </ul>				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気がみえる VOL10 産科 第3版（メディックメディア）</li> <li>・看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ、Ⅱ 前原 澄子（編集）（中央法規出版）</li> </ul>				

科 目 名	精神看護学実習				
担 当 教 員 名	結城 佳子				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	精神疾患および精神障害を持つ人とのかかわりと看護援助の実践を通して、対象を精神的・身体的・社会的側面等から総合的に理解し、治療的コミュニケーション技法および精神科における看護援助方法を修得すること。また、精神疾患および精神障害が対象の生活に及ぼす影響を理解し、生活支援における他職種と医療チームにおける看護職の役割を理解することを目標とする。				
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神科病棟において入院患者を受け持ち、看護過程を展開する。あわせて、施設見学、精神科における治療・リハビリテーションの見学を行う。</li> <li>2. 受け持ち患者をはじめとする入院患者とのかかわりや受け持ち患者の看護過程の展開を通して、精神看護に必要な基礎的な知識・技術を習得し、精神科において看護職に求められる基本的な態度を養う。</li> <li>3. 治療・リハビリテーションの見学や看護過程の展開を通して、他職種の役割と医療チームにおける看護職の役割を理解する。</li> </ol>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実習施設オリエンテーション・見学を行う（半日）</li> <li>2 別途配布する「精神看護学実習要項」に基づいて学内オリエンテーションを行う。（半日）</li> <li>3 精神科救急急性期病棟、回復期病棟、慢性期病棟のいずれかにおいて2週間の実習を行う。患者を受け持ち、臨地実習指導者および教員の指導のもと看護過程を展開、実践する。（各自の実習時期については、別途指示する）</li> <li>4 実習期間中にアルコール集団療法、SST、作業療法等の精神科における治療・リハビリテーションの実際を見学する。（見学日時は実習施設の予定による）</li> <li>5 実習中に受け持ち患者等とのかかわりをプロセスレコードに記録し、自己理解に活用する。</li> <li>6 実習終了後、看護計画や記録類、総合レポートを提出する。（提出日は別途指示する）</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	学内ですでに学習している専門基礎科目、専門科目（特に、精神看護学概論、精神看護活動論）で学んだことを活用する必要がある。学んだことを復習して実習に臨むこと。 看護学生としてふさわしい責任ある行動や真摯な態度をとること。				
学 生 に 対 す る 価	実習要項の評価方法に準じる。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	テキストは使用しない。				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					



科目名	在宅看護概論				
担当教員名	小澤 美和・伊藤 亜希子				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	
学習到達目標	①在宅看護の目的や特徴が理解する ②在宅看護の歴史的変遷や社会背景を理解する。 ③在宅で療養者する人々と家族の生活や支援について考えることができる ④在宅看護に関連する社会資源について理解する。 ⑤他職種との連携の必要性について理解する。 ⑥看護の継続性、在宅ケアマネジメントについて理解する。				
授業の概要	地域で暮らす療養者や家族の生活を理解し、在宅における看護の特徴や支援のあり方を学ぶ。また、在宅生活を支えるための社会資源や地域包括ケアシステムなどについて学ぶ。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 在宅看護とは</li> <li>2 在宅看護の理念と対象</li> <li>3 在宅看護の歴史と社会的背景</li> <li>4 在宅看護をめぐる法制度と社会資源</li> <li>5 地域で療養する人々の社会資源を知る（1）介護保険制度</li> <li>6 地域で療養する人々の社会資源を知る（2）障害者支援に関する制度</li> <li>7 訪問看護ステーションと訪問看護のしくみ</li> <li>8 在宅看護における家族支援</li> <li>9 家族支援の実際</li> <li>10 訪問看護の実際</li> <li>11 地域包括ケアシステム</li> <li>12 地域包括支援センター</li> <li>13 ケアマネジメントと他職種連携</li> <li>14 継続看護と退院調整</li> <li>15 在宅療養者の権利保障と倫理 まとめ</li> </ol>				
授業の留意点	高齢社会、疾病構造の変化、療養者や家族のニーズの変化などを背景に在宅看護の必要性は高くなっています。最近の在宅医療や介護に関するニュースなどに関心を持ち、障害や病気をもちながら地域で生活することについて考えてみましょう。授業の進行状況によって内容を変更する場合があります。				
学生に対する評価	試験 100点、				
教科書（購入必須）	河野あゆみ編 新体系 看護学全書 『在宅看護論』 メヂカルフレンド社				
参考書（購入任意）					

科 目 名	在宅看護活動論 I				
担 当 教 員 名	小澤 美和・伊藤 亜希子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	①在宅療養者とその家族の生活について理解できる ②在宅療養者とその家族に必要な生活援助を考えることができる ③在宅看護に必要な生活援助技術を習得できる ④対象別在宅療養者の看護について理解できる				
授 業 の 概 要	訪問看護の訪問技術、環境調整、福祉用具の活用について学ぶ。また、在宅看護の日常生活援助の技法について演習で取り組み在宅看護の実践能力を培う。難病、精神疾患をもつ療養者とその家族に必要な看護を学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 在宅看護援助の基本</li> <li>2 在宅看護における訪問技術</li> <li>3 在宅療養者の日常生活援助</li> <li>4 在宅看護の基本技術 演習 (1) グループワーク</li> <li>5 在宅看護の基本技術 演習 (2) グループワーク</li> <li>6 在宅看護の基本技術 演習 (3) グループワーク</li> <li>7 在宅看護の基本技術 発表 (1)</li> <li>8 在宅看護の基本技術 発表 (2)</li> <li>9 在宅看護の基本技術 発表 (3)</li> <li>10 在宅療養者の日常生活援助 (1) ～食事・栄養</li> <li>11 在宅療養者の日常生活援助 (2) ～排泄・清潔</li> <li>12 在宅療養者の日常生活援助 (3) ～環境調整・住宅改修</li> <li>13 在宅における感染管理とリスクマネジメント</li> <li>14 対象別在宅看護：難病をもつ在宅療養者</li> <li>15 対象別在宅看護：在宅精神障害者 まとめ</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	授業は、講義、グループワーク、ロールプレイを行います。積極的に自分の考えや意見を述べましょう。 授業の進行状況によって内容を変更する場合があります。				
学 生 に 対 す る 価	試験 80 点 レポート課題 10 点、演習取り組み 10 点				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	河野あゆみ編 新体系 看護学全書『在宅看護論』 メヂカルフレンド社				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	押川眞喜子監修「写真でわかる訪問看護」インターメディカ				

科目名	在宅看護活動論Ⅱ				
担当教員名	小澤 美和・伊藤 亜希子				
学年配当	3年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	後期	必修選択	必修	資格要件	
学習到達目標	①小児や終末期、医療処置等が必要な療養者・家族への支援を理解する ②在宅における口腔ケアの必要性と支援を理解する ③在宅ケアを支える他職種等の役割や連携について考えることができる ④在宅における看護過程を理解する				
授業の概要	在宅療養者やその家族の生活および健康上の課題は多様であり、その支援にも様々な展開がある。小児や終末期、医療処置等の必要な在宅療養者について理解し、その対象に応じた在宅看護活動の展開について学ぶ。事例を用いて他機関・他職種との連携や看護過程の展開を考える。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 在宅酸素療法を必要とする人へのケア</li> <li>2 子どもの在宅療養を支える看護</li> <li>3 在宅における終末期ケア</li> <li>4 在宅における口腔ケア</li> <li>5 嚥下障害のある人へのケア</li> <li>6 在宅看護における他職種や他機関との連携と協働</li> <li>7 他職種との役割と機能（1）グループワーク</li> <li>8 他職種との役割と機能（2）発表</li> <li>9 サービス担当者会議の実際（1）（グループワーク）</li> <li>10 サービス担当者会議の実際（2）（ロールプレイ）</li> <li>11 在宅における看護過程の展開</li> <li>12 在宅看護過程～情報収集とアセスメント</li> <li>13 在宅看護過程～看護計画</li> <li>14 在宅看護過程～看護計画と発表準備</li> <li>15 在宅看護過程～発表 まとめ</li> </ol>				
授業の留意点	在宅看護は各看護領域と関連が深く看護の応用と言われます。これまでに学習した看護の基本をベースに在宅看護を考えて欲しいと思います。授業の進行状況によって内容を変更する場合があります。				
学生に対する評価	試験 80 点、演習の取り組み 20 点				
教科書（購入必須）	河原加代子著者代表 系統看護学講座 統合分野『在宅看護論』 医学書院				
参考書（購入任意）	押川眞喜子監修『写真でわかる訪問看護』インターメディカ				

科 目 名	在宅看護実習				
担 当 教 員 名	小澤 美和・伊藤 亜希子				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	1. 在宅療養者と家族の特性や生活上の課題やニーズを理解する。 2. 対象者の病気や障害に対する気持ちの受け止めや価値観などを考えることができる。 3. 在宅療養者や家族の健康や生活状態に応じた支援について考えることができる。 4. 対象者が利用している社会資源の内容を理解する。 5. 在宅療養者および地域全体の健康問題の解決に必要な保健・医療・福祉サービスの連携について理解する。				
授 業 の 概 要	訪問看護ステーション、地域包括支援センター、障害者施設において実習を行う。訪問看護ステーションの実習では、訪問看護師に同行し在宅療養者の自宅における訪問看護活動の展開を学ぶ。地域包括支援センターでは、地域包括支援センターの体制と支援活動について学ぶ。障害者施設では、地域で暮らす障害者の生活を理解し、生活モデルを用いた関わり方や支援方法を学ぶ。また、地域で生活する人々に対する在宅ケアサービスと保健・医療・福祉の連携・調整を理解する。				
授 業 の 計 画	実習方法 詳細については実習要項およびガイダンスにて説明する。 1 週目：訪問看護ステーションにおける訪問看護実習 2 週目：地域包括支援センターおよび地域で生活する障害者の在宅生活を支援する施設における実習 実習内容 詳細については実習要項およびガイダンスにて説明する。 実習場所 訪問看護ステーション（名寄市内および周辺地域） 地域包括支援センターおよび地域の障害者施設 実習期間 2 週間				
授 業 の 留 意 点	在宅看護や障害者福祉に関係する制度や社会資源などについて復習をして実習に臨んでください。実習では在宅療養者の自宅や施設を訪問させていただきます。訪問の際には、学生としての節度ある態度と学ばせていただくという気持ちを忘れないで実習に取り組んで欲しいと思います。				
学 生 に 対 す る 価 値	実習要項の評価方法に準ずる。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )					
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					

科 目 名	看護倫理				
担 当 教 員 名	石垣 靖子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	倫理が日常の実践と深く結びついていることを学び、倫理の基本的な知識を学習する。 また、医療・ケアの目標である受け手の QOL を維持し、高めるために患者・家族のアドボケートとしての看護師の役割について学習する。				
授 業 の 概 要	看護師として、ケアの対象である患者・家族への倫理的な支援が行えるように、基本的な知識をグループワークやビデオ学習等を通して学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療倫理のはじまり、その背景について理解する。</li> <li>2 医療・ケアの質と倫理の位置づけを説明できる。</li> <li>3 看護倫理の特徴と倫理的ジレンマについて理解する。</li> <li>4 受け手と担い手との共同行為としての医療・ケアについて説明できる。</li> <li>5 倫理観が原点である“ケアリング”の概念について理解する。</li> <li>6 意思決定を支援するプロセスとその本質について理解する。</li> <li>7 倫理事例検討の実際を理解する。</li> <li>8 院内倫理委員会とその役割について理解する。</li> <li>9 人間尊重の倫理原則とその実際について理解する。</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	倫理がよい実践と同義語であることを授業を通して一緒に考えたいと思います。 実習で出会った様々な場面を通して話し合しましょう。				
学 生 に 対 す る 価 値	授業態度 30 点 レポート 70 点				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	石垣 靖子他：臨床倫理ベーシックレッスン、日本看護協会出版会、2012				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	清水哲郎著 「医療現場に臨む哲学」勁草書房 1997 (この本は臨床に出てからも役立つ本です。)				

科 目 名	看護マネジメント論				
担 当 教 員 名	原口 眞紀子・黒崎 明子・河地 範子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	看護サービスを提供するためには、看護職同士の協同、他職種との連携、対象者自身やご家族の協力とともに、対象者を取り巻くあらゆる資源を十分に活用することが必要となるため、その人的・物的・財的資源が自然発生的に無限にあるのではなく、多くの場合有限であるため、これらの資源をどのように有効利用するかが重要であり、それを維持・活用するための仕組みを理解する。				
授 業 の 概 要	1. チームや組織をつくり動かしていくことは管理者だけの仕事ではなく、ケアを提供しているすべての看護職が担う役割であることを学ぶ。 2. 看護を仕組みとしてとらえ、それがどのようなになっているのか、問題はなにか、どのような改善策があるのか、どのようにすればより良い看護が提供できるのか等を追及し、多数の人々が共に働くための「技」を学ぶ。				
授 業 の 計 画	1 看護とマネジメント 2 看護ケアのマネジメント 3 看護ケアのマネジメント 4 看護ケアのマネジメント 5 看護サービスのマネジメント 6 看護サービスのマネジメント 7 看護サービスのマネジメント 8 看護サービスのマネジメント 9 看護を取りまく諸制度 10 看護を取りまく諸制度 11 看護を取り巻く諸制度 12 看護を取り巻く諸制度 13 マネジメントに必要な知識と技術 14 マネジメントに必要な知識と技術 15 マネジメントに必要な知識と技術				
授 業 の 留 意 点	実習中に気づいた看護管理に関する問題・疑問・課題解決に向けて考えたことを整理しておく。				
学 生 に 対 す る 価	レポート100点で評価する。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	上泉和子他 『系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践 [1]』 医学書院				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					

科目名	看護教育学				
担当教員名	定廣 和香子・松田 安弘				
学年配当	4年	単位数	1単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	
学習到達目標	① 看護教育学の構造・基本概念を理解し、看護教育制度の特徴と課題を明らかにする。 ② 看護教育カリキュラム編成・授業展開・教育評価の基本を理解する。 ③ 看護専門職として発展するために必要な理論・研究成果を学習し、その特徴と意義を明らかにする。 ④ ①から③を通して、大学において看護学を学習する上での自己の課題を明らかにする。				
授業の概要	看護教育学の構造・基本概念の理解を基本として、わが国における看護教育制度、看護学教育におけるカリキュラムのプロセス、教授＝学習過程、教育評価について学習することを通し、看護職養成教育の現状と今後の課題について考察する。また、専門職として発展するために必要な理論・研究成果を学習するとともに、これらの学習を通して、大学において看護学を学ぶ意義と課題を確認する。				
授業の計画	1 ガイダンス・看護教育学と看護学教育 2 看護教育制度（1）基礎 3 看護教育制度（2）発展 4 看護教育カリキュラム 5 看護学教育における授業展開（教授＝学習過程） 6 看護学教育における教育評価 7 看護専門職として発展するために必要な理論・研究成果 8 看護学教育の現状と今後の課題				
授業の留意点	看護教育学は、学生の皆様を含む看護職者の発達の支援を通して、看護の対象に質の高い看護を提供することを目指す学問です。また、その研究対象は、看護学教育の各領域に共通して普遍的に存在する要素（学習活動、教育活動、カリキュラム、教育評価、看護学実習 etc）です。講義では、様々な看護教育学の研究成果を紹介しながら授業を進めていきます。皆様が、看護学の学習を進める上での課題や問題を解決するヒントを見つけていただければ幸いです。				
学生に対する評価	レポートで評価する。(100点)				
教科書 (購入必須)	杉森みどり・舟島なをみ：看護教育学第6版、医学書院、2016				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	災害看護学				
担 当 教 員 名	播本 雅津子				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	①災害看護の基礎的知識を理解する。 ②災害時の医療・看護活動の実際を知り、今日的課題を考察する。 ③災害が人々の生活に及ぼす影響を理解する。 ④災害時の看護者の役割を述べることができる。				
授 業 の 概 要	災害看護とは、看護独自の知識や技術を用いるとともに、他の専門分野の人々と協力して、災害が及ぼす生命や健康的な生活への影響をできるだけ少なくするための活動を行うことである。本講義では災害時において看護職が果たす役割、医療チームにおける他職種との連携について、災害が健康に及ぼす影響とともに学ぶ。具体的には、発生直後から各期に渡り発生する人々のニーズと健康問題の理解、さらに被災者に起こりうる中・長期的な身体的・心理的・社会的な影響と看護の役割について考察を行う。また、緊急救護活動についても理解を深める。				
授 業 の 計 画	1 コースオリエンテーションと災害の基礎的知識（災害医療・看護の定義・分類、災害に関する法律・用語、災害サイクル） 2 災害看護活動①（急性期の看護活動） 3 災害看護活動②（中・長期の看護活動） 4 災害看護活動③（対象別の看護活動） 5 災害看護の実際①（演習） 6 災害看護の実際②（演習） 7 災害看護の実際③（演習のまとめ） 8 統合学習				
授 業 の 留 意 点	実際の災害医療・看護実践場面の画像を見ることに不安がある学生は、事前に申出てください。 災害はいつ、どこで起こるかかわからないだけに日頃の備えが大切です。主体的に学習に取り組んでください。 なお、実際に起こる災害によって適宜内容の変更があります。				
学 生 に 対 す る 価 値	試験 60 点 課題 30 点 授業態度 10 点 として評価する。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )					
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	黒田 裕子・酒井 明子 編 : ナーシング・グラフィカ EX 5. 災害看護、メディカ出版、2011				



科 目 名	国際看護学				
担 当 教 員 名	段 亜梅・長谷部 佳子 他				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	①国際看護における基本的な概念・目的・必要性について理解し、説明することができる。 ②国際看護活動に関係する看護の組織と機能(WHO・ICN・ODA・JICA) について理解する。 ③国際看護が必要とされる世界の現状を把握する。 ④諸外国の看護と日本の看護教育・実践・研究を比較検討し、世界に貢献できる日本の看護の方向性を考察できる。 ⑤国際看護学の学習を通して、人間の健康に与える政治、経済、文化など社会的環境に対する理解を深め、関心を広げる。				
授 業 の 概 要	国際看護は、国や地域、あるいは民族などによる保健医療・看護の格差をなくすこと、多様な文化や価値観が共存できることを目的として、世界共通の看護問題に取り組むものである。本講義では諸外国の保健医療・看護の現状、文化によって求められる看護ケアの違いを学び、国際化する社会の中で、人々が個々に求める援助の多様性について学ぶ。具体的には、国際看護に関する基礎的知識と世界の各地の看護や医療に関する状況の把握、文化によってニーズが異なることを学ぶ。さらに、諸外国の看護や医療の特徴と実践例などを学習することを通じて様々な対				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国際看護学に関する基礎知識</li> <li>2 世界の情勢と健康問題の現状</li> <li>3 異文化理解と関連する要因</li> <li>4 国際協力機関および国際保健看護活動の実際①</li> <li>5 国際協力機関および国際保健看護活動の実際②</li> <li>6 日本における異文化看護（外国人の受診状況）</li> <li>7 異文化看護の体験談等</li> <li>8 国際看護の課題／全体のまとめ</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	世界の情勢は日々変化しています。日ごろからマスメディアなどを活用して、国内外の看護・保健医療に関する見識を深めていきましょう。				
学 生 に 対 す る 価	演習の取組状況（60点）、グループワーク/レポート（40点）。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	授業中にプリントを随時配付する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	浦田喜久子・小原真理子編：系統看護学講座統合分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③. 医学書院.				

科 目 名	看護情報学				
担 当 教 員 名	村上 正和				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	①看護情報学における基礎的知識を理解する。 ②看護における情報の特徴とその扱い、看護者としての情報倫理を理解する。 ③今日、臨床で活用されている情報システムとその活用について理解する。				
授 業 の 概 要	本科目は、これまで学習してきたコンピュータリテラシーを再確認するとともに、看護が扱う情報についての基本的特徴、看護場面における情報の持つ意味・特徴、医療情報システムの概要と看護における活用について学習し、プライバシーに関する基本的知識と態度を習得し、自らが看護に関する情報をより効率的に的確に利用できる能力を涵養することを目指す。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 コースオリエンテーション・看護情報学の概要と看護師が身に着けるべき ICT 能力</li> <li>2 コンピュータリテラシーと情報リテラシー</li> <li>3 情報倫理と法</li> <li>4 看護におけるデータ・情報の特徴 ※情報共有演習含む</li> <li>5 医療情報システム ※電子カルテ演習含む</li> <li>6 看護用語の標準化と標準看護計画</li> <li>7 看護における情報システム活用例</li> <li>8 統合学習</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点					
学 生 に 対 す る 価 値	試験(60点)、課題(30点)、授業態度・講義ごとのリアクションペーパー(10点)により総合的に評価する。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )					
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	・中山和弘他：系統看護学講座 別巻 看護情報学/医学書院 2012 ・太田勝正他：看護情報学/医歯薬出版 2014 ・坂田信裕監修：だいじょうぶ？あなたの情報リテラシー(DVD)/医学映像教育センター				

科 目 名	統合実習				
担 当 教 員 名	看護学科教員				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保健師：必修
学 習 到 達 目 標	<p>保健医療チームの一員として看護の役割を学び、他職種、他機関との連携・協働を通して主体的に看護を展開する実践的能力を養う。また、既習の講義・実習を統合し、興味・関心領域における看護実践能力の向上をめざし、探究的姿勢および態度を学ぶ。</p> <p>1. 保健医療チームおよび看護チームの組織・機能・管理の実際を学び、チームの一員としての役割を理解する。</p> <p>2. 保健医療チーム並びに看護チーム、他機関、他職種等との連携・協働の実際を学び、統合的・継続的な看護実践について理解する。</p> <p>3. 看護実践に必要な知識・技術を統合し、より実践的</p>				
授 業 の 概 要	<p>基礎、成人、老年、小児、母性、精神、在宅ならびに公衆衛生看護学の各領域または領域間の連携により実習する。各領域の専門性を反映した実習内容により実習目的・目標の到達をめざす。学生は、選択した領域の実習計画に基づき、配置された実習施設での実習を行う。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 別途配布する「統合実習要項」に基づき、学内でのオリエンテーションを行う。</li> <li>2 オリエンテーションでは、各領域等の実習計画（実習方法、内容、実習施設等）について説明し、領域等の配置について希望調査を行う。</li> <li>3 それぞれの希望に応じて、領域等ならびに実習施設の配置を調整する。各実習施設への学生配置数は2～4名を予定している。各グループには、担当の教員と臨地実習指導者を配置し、指導を行う。</li> <li>4 実習内容は、より実践的な看護活動として看護管理、複数患者受持ち、夜間帯勤務の見学等、継続看護は退院支援や地域生活動支援等他、他機関・他職種との連携、家庭訪問、地区組織活動等領域の専門性を反映している。</li> <li>5 実習施設での実習中は、教員と臨地実習指導者が連携して指導にあたる。また実習終了後は、主に教員の指導に基づき、学内演習等により学びを深めその統合を行う。</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	4年間の学びの集大成の実習であり、主体的に学び、自己を研鑽する姿勢をもって実習に臨むこと、看護学生として責任ある行動をとることが期待される。				
学 生 に 対 す る 価	実習目標に対する到達度、実習内容、実習記録類・レポート等により、総合的に評価する。（実習要項を参照）				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	特に指定しない				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科目名	看護統合演習				
担当教員名	看護学科教員				
学年配当	4年	単位数	1単位	開講形態	演習
開講時期	通年	必修選択	選択	資格要件	
学習到達目標	<p>1. 患者の身体への侵襲が強く実習や学内演習では体験することができなかった診療補助技術や、実際臨床で行われている実践に近い看護技術のスキルを習得することができる。</p> <p>2. 看護管理者の講演や新卒者との懇談から臨床現場の実際を知り、看護専門職として・社会人としての心構えができる。</p>				
授業の概要	<p>臨床に即した看護技術実践力の向上、専門的看護技術の向上、看護専門職者としての心構えの育成をめざし</p> <p>1. 優先度や判断力を育成する多重課題を有する患者のロールプレイを行う。</p> <p>2. 卒業生を含む臨床現場の看護師の指導を受けながら、実習や学内演習では体験できない診療補助技術の演習を行う。3. 看護管理者から「看護専門職者として求められていること」、新卒や臨床の看護師から「社会人としての心構え・新人としての臨床の体験」などの講演を聞く。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護統合演習 オリエンテーション スケジュール説明など</li> <li>2. 講演会 看護管理者を招く 新人看護師に期待すること、社会から見た看護職者に求められること（仮）</li> <li>3. 講演会 看護管理者を招く 新人看護師に期待すること、社会から見た看護職者に求められること（仮）</li> <li>4. 講演会 新人看護師（卒業生） 卒業1年を経過して、看護師として社会人として（仮）</li> <li>5. 講演会 新人看護師（卒業生） 卒業1年を経過して、看護師として社会人として（仮）</li> <li>6. 多重課題 ロールプレイ</li> <li>7. 多重課題 ロールプレイ</li> <li>8. 多重課題 ロールプレイ</li> <li>9. 多重課題 ロールプレイ</li> <li>10. 技術演習 点滴静脈内注射・筋肉注射、経口与薬、採血、吸引他</li> <li>11. 技術演習 点滴静脈内注射・筋肉注射、経口与薬、採血、吸引他</li> <li>12. 技術演習 点滴静脈内注射・筋肉注射、経口与薬、採血、吸引他</li> <li>13. 技術演習 点滴静脈内注射・筋肉注射、経口与薬、採血、吸引他</li> <li>14. 卒業生や臨床NSとの座談会</li> <li>15. 卒業生や臨床NSとの座談会</li> </ol>				
授業の留意点	卒業直前の演習です。実際に就職する病院施設のNsの指導が受けられるので、実習では体験できなかった現場のスキルを教えてもらおう。先輩Nsに心配や不安なことを聞いて心の準備をしよう。				
学生に対する評価	課題レポート2回 各50点 計100点				
教科書（購入必須）	なし				
参考書（購入任意）	必要時紹介する				

科 目 名	看護研究の基礎				
担 当 教 員 名	長谷部 佳子・南山 祥子・本吉 美也子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	看護における様々な事象について、専門的知識・技術の向上や開発につながる信頼性・妥当性の高い知見を導き出すために必要な看護研究の知識や研究方法への理解を深め、実践の場における研究活動を自立して行うための知識的基盤を習得することを目標とする。				
授 業 の 概 要	新しい知見を導き出すために必要な看護研究の方法論について、先行研究論文のクリティークや具体的な研究例等を通して学び、研究に重要な科学的かつ論理的な思考方法や研究者としての倫理について理解を深める。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護研究とは、看護における研究の必要性と意義</li> <li>2 看護研究の方法</li> <li>3 看護研究における倫理</li> <li>4 文献検索と検討①クリティークの視点</li> <li>5 文献検索と検討②自己の研究テーマへの活用</li> <li>6 研究計画の立て方①研究方法の決定方法</li> <li>7 研究計画の立て方②評価項目の決定方法</li> <li>8 調査研究①量的研究と質的研究</li> <li>9 調査研究②データ収集の方法と注意点</li> <li>10 実験研究</li> <li>11 調査研究③調査の実施</li> <li>12 調査研究④質的データの整理</li> <li>13 研究発表の仕方</li> <li>14 看護研究の実際①研究計画書の作成</li> <li>15 看護研究の実際②データ処理</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	卒業研究での学習を進めるために必須な学習内容となっているので、必ず全講義に出席すること。積極的に講義に参加することを期待する。				
学 生 に 対 す る 価 評	レポート 100 点で評価する。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	岡本和士, 長谷部佳子: 看護研究はじめの一步, 第 1 版, 医学書院, 2006				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	下記の他, 必要時指示する。 黒田裕子: 看護研究 step by step, 第 4 版, 医学書院, 2012				

科 目 名	卒業研究				
担 当 教 員 名	看護学科教員				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	
学 習 到 達 目 標	<p>テーマ：看護研究の方法論を学ぶ          目標：看護研究の基礎で学んだことをもとに、将来にわたって看護研究に関心を深め、科学的・論理的思考を学ぶとともに、研究的態度と姿勢を修得する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>本科目は、既習の知識や看護学実習から生まれた問題意識を研究課題へ発展させ、研究計画書作成から論文作成、発表までの過程について学ぶことを目的とする。小人数ゼミナール及び担当教員の指導により、研究課題に関する文献検索から目的を明確にし、適した研究方法を選択し研究計画書を作成する。必要時は倫理審査を受ける。研究計画に基づきデータ収集（実施）、分析、考察を行い、論文としてまとめていく。更に、報告会で発表と討議を行う。研究計画から実施、まとめ、発表の一連を通して、科学的・論理的思考を学ぶとともに、継続的に自己を研鑽</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 卒業研究に関する全体ガイダンス</li> <li>2 関心のある課題を設定して、その課題追求の可能性を探求する</li> <li>3 関心のある課題の周辺論文や先行研究などへのクリティークを行い、研究の目的や価値・意義を検討する</li> <li>4 研究するための文献をクリティークし、研究デザインを検討する</li> <li>5 研究目的に合った研究方法を検討し、データ収集するための資料を作成する</li> <li>6 研究計画書を作成する</li> <li>7 大学倫理委員会の審査を受ける</li> <li>8 研究の実実施施設、対象者に依頼・調整して協力を得る</li> <li>9 研究計画書に基づき、対象者へ倫理的配慮を行いながらデータを収集する</li> <li>10 収集したデータの整理を行い分析する</li> <li>11 分析したデータの結果を先行研究の結果と対比しながら、吟味や考察を行う</li> <li>12 研究の結論を明らかにして文章化に取り組む</li> <li>13 定められた体裁に整えて、研究成果を論文・抄録にまとめる</li> <li>14 研究成果の発表と討議を行う</li> <li>15 研究の全過程を振り返って自己課題の達成度および取り組みの態度への自己評価を行う</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	<p>研究対象が、病院施設の患者さんや看護師などの外部の場合には、倫理的配慮を十分におこなうこと。担当教員と相談して必要時は大学の倫理審査、さらには関係する施設の倫理審査を受ける。実施時は対象となる協力者に調査の概要説明と協力依頼の承諾を得たうえで行う。適宜、教員から指導を受けながら実施する。</p>				
学 生 に 対 す る 価 値	<p>実施、論文作成などの課題の達成度（50点）、計画書、取組の姿勢・態度、倫理的配慮など（50点）から総合的に評価する。</p>				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	<p>使用しない</p>				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	<p>南裕子編集：「看護における研究」、日本看護協会出版会          小笠原千枝：これからの看護研究－基礎と応用－、ヌーヴェルヒロカフ          参考文献は各教員から適宜、紹介する。</p>				

科 目 名	公衆衛生看護学概論				
担 当 教 員 名	播本 雅津子				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保健師：必修
学 習 到 達 目 標	公衆衛生看護活動は、地域において、個人・家族・集団・組織等を対象に、人々の健康への援助を看護の立場から活動展開することである。公衆衛生看護の視点は、公衆衛生を基盤とし、対象集団全体の健康増進と疾病予防を目指している。ここでは公衆衛生看護の活動の概要および、公衆衛生看護の専門職である保健師について学び、保健師という専門職の役割を理解することを目標とする。				
授 業 の 概 要	保健師という専門職を理解し、その活動分野および職種の役割について学ぶ。保健師という職業の成り立ちや時代背景、現代における役割期待など、公衆衛生看護活動の実際を学ぶ導入とする。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 公衆衛生看護の理念と活動分野</li> <li>3 保健師の専門性について</li> <li>4 対象としての個人・家族</li> <li>5 対象としての集団・組織</li> <li>6 公衆衛生看護活動の場－行政・在宅・産業・学校</li> <li>7 公衆衛生看護に関わる法規および他の職種</li> <li>8 公衆衛生看護活動の歴史（1）保健師活動の涯流</li> <li>9 公衆衛生看護活動の歴史（2）法律・制度の整備</li> <li>10 保健師による保健指導とは</li> <li>11 保健指導技術について</li> <li>12 家庭訪問活動の基礎</li> <li>13 家庭訪問活動の応用</li> <li>14 電話相談の基礎</li> <li>15 電話相談の応用</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	遅刻・欠席のないよう健康管理に努めた上で授業に臨むこと。遅刻・欠席をする場合は必ず連絡をすること。				
学 生 に 対 す る 価 値	定期試験 80 点、レポート 20 点により評価する。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 医学書院 保健師業務要覧第 3 版 日本看護協会出版会				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					

科 目 名	保健指導論					
担 当 教 員 名	播本 雅津子・作並 亜紀子					
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習	
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	保健師：必修	
学 習 到 達 目 標	保健師活動の基本は地域診断である。そして、家庭訪問・健康相談・健康教育などは保健師活動の基本となる保健指導技術である。この科目では地域診断および保健指導についての各技法・技術の特徴や保健師が果たすべき役割等を理解し、必要に応じて技法・技術を選択し、優先度を考慮して提供するための基本的能力を養う。					
授 業 の 概 要	保健師に必要な保健指導技術のうち、地域診断・健康相談・健康教育などの具体的技術について演習を通じて学ぶ。演習は、個人で取り組むものとグループで取り組むものがある。グループワークでは、教員の指導を受け、専門職にふさわしい技術の習得を目指すものとする。グループワークの成果は報告会によりクラス全体で共有する。					
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 講義：地域診断 3 講義：啓発活動 4 演習：地域診断・啓発活動 テーマ選定とグループ分け 5 演習：地域診断・啓発活動 テーマ別基本学習 6 演習：地域診断・啓発活動 テーマ別原稿作成 7 演習：地域診断・啓発活動 テーマ別報告準備 8 演習：地域診断・啓発活動 テーマ別報告会練習 9-10 地域診断・啓発活動報告会 11 講義：問診 12 講義：健康相談 13 演習：問診・健康相談 テーマ選定とグループ分け 14 演習：問診・健康相談 テーマ別基本学習 15 演習：問診・健康相談 テーマ別原稿作成 16 演習：問診・健康相談 テーマ別報告準備 17 演習：問診・健康相談 テーマ別報告会練習 18-20 問診・健康相談報告会 21 講義：健康教育 22 講義：健康教育 先輩によるデモンストレーション 23 演習：健康教育 テーマ選定とグループ分け 24 演習：健康教育 テーマ別基本学習 25 演習：健康教育 テーマ別原稿作成 26 演習：健康教育 テーマ別報告準備 27 演習：健康教育 テーマ別報告会練習 28-30 健康教育報告会					
授 業 の 留 意 点	講義およびグループ演習には積極的な態度で臨むこと。 遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。 万が一の遅刻・欠席は必ず連絡を入れること。 グループワークでは、時間外に予習・復習を行う必要が生じるため、各自健康管理とともに時間管理を行い、グループワークおよび授業の進行に協力すること。					
学 生 に 対 す る 価	定期試験 70 点、レポート 30 点により評価する。					
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	最新保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 メチカルフレンド社					
参 考 書 ( 購 入 任 意 )						



科 目 名	地区活動論 I				
担 当 教 員 名	播本 雅津子・作並 亜紀子・室矢 剛志				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保健師：必修
学 習 到 達 目 標	保健師活動の基本となる地域診断および家庭訪問技術について学ぶ。地域診断演習では、新たな地域を題材に2年次に学んだ内容に加え、地域診断技術の向上を目標とする。地域の健康問題に関する既存資料や、地区踏査およびインタビューなど、実践的な演習を行い、地域診断のための様々な技術の習得を目指す。家庭訪問技術では、訪問者の取り扱い、訪問技術の基礎などを、演習を通して習得することを目標とする。				
授 業 の 概 要	講義と演習を組み合わせながら進める。理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 公衆衛生看護管理：地域診断 3 さまざまな地域診断モデルについて 4 演習：地域診断の実際一名寄市をモデルに テーマ別グループ分け 5-6 演習：地域診断の実際一名寄市をモデルに テーマ別資料収集 7-8 演習：地域診断の実際一名寄市をモデルに テーマ別地区踏査 9-10 演習：地域診断の実際一名寄市をモデルに テーマ別報告準備 11 報告会 名寄市の地域診断 12 演習：さまざまな地域の地域診断 市町村別資料収集 13 演習：さまざまな地域の地域診断 市町村別報告準備 14-15 報告会 さまざまな市町村の地域診断 16 講義：継続訪問 17 演習：継続訪問第1回 18 継続訪問カンファレンス第1回 19 演習：継続訪問第2回 20 継続訪問カンファレンス第2回 21 継続訪問個別指導 22 継続訪問全体カンファレンス 23 公衆衛生看護管理：人事管理 24 人材育成 25 保健師の働く場 26 地方公共団体における保健師活動 27 住民活動・組織化 28 グループ活動とその支援 29-30 まとめ				
授 業 の 留 意 点	講義およびグループ演習には積極的な態度で臨むこと。 遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。 万が一の遅刻・欠席は必ず連絡を入れること。				
学 生 に 対 す る 価 評	定期試験 60 点、提出物 40 点により評価する。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	最新 保健学講座 2 公衆衛生看護支援技術 メチカルフレンド社 最新 保健学講座 5 公衆衛生看護管理論 メチカルフレンド社 日本看護協会保健師職能委員会 監修 新版第2版 保健師業務要覧 日本看護協会出版会				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					

科 目 名	地区活動論Ⅱ				
担 当 教 員 名	播本 雅津子・作並 亜紀子・室矢 剛志				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保健師：必修
学 習 到 達 目 標	<p>地域診断を通して明らかになった問題や課題を、地域住民と共有して、その解決に向けた組織運営や活動計画策定の方法について理解する。          &lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康な地域づくりを目指した保健活動計画の計画・実施・評価のプロセスについて理解する。</li> <li>2. 地域看護活動における連携・調整機能を理解する。</li> <li>3. 地域住民の主体性を尊重し、人々の協働による問題解決を支援するための保健師の基本姿勢を理解する。</li> </ol>				
授 業 の 概 要	<p>住民の生活の営みに即した方法で健康的な生活を支援するための地区活動について、その手段である様々な保健事業とその法的・財政的裏付け、住民の主体的取組みへの動機づけとグループ支援・組織化、他職種との連携と協働による地域ケアシステムの構築について学び、地区活動を展開するための基本的な能力を養う。演習として名寄市内の町内会の協力を得て地域の行事に継続的に参加し、住民自治活動の実際を体験する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 住民活動・組織化の実際</li> <li>3 住民自治活動</li> <li>4 名寄市町内会連合会との懇談会</li> <li>5 名寄市内単位町内会との懇談会</li> <li>6 演習：地区組織活動への参加 夏季行事への参加</li> <li>7 組織活動カンファレンス第1回</li> <li>8 演習：地区組織活動への参加 秋季行事への参加</li> <li>9 演習：地区組織活動への参加 冬季行事への参加</li> <li>10 組織活動カンファレンス第2回</li> <li>11 保健福祉計画の策定について</li> <li>12 総合計画・基本計画・実施計画</li> <li>13 評価について</li> <li>14 さまざまな評価方法</li> <li>15 統計資料の種類と活用方法</li> <li>16 演習：統計資料から健康課題を抽出する 担当地域別グループ分け</li> <li>17-20 演習：統計資料から健康課題を抽出する データ収集</li> <li>21-23 演習：統計資料から健康課題を抽出する 資料作成</li> <li>24-26 演習：統計資料から健康課題を抽出する 健康課題の抽出</li> <li>27-28 報告会 各地域の健康課題</li> <li>29-30 まとめ</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	遅刻・欠席をする場合は必ず連絡をすること。				
学 生 に 対 す る 価	試験 60 点、提出物 40 点により評価する。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	最新 保健学講座 5 公衆衛生看護管理論 メヂカルフレンド社				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					

科 目 名	対象別保健指導論 I				
担 当 教 員 名	播本 雅津子・作並 亜紀子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保健師：必修
学 習 到 達 目 標	<p>対象別保健指導論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康問題にアプローチする手法を学ぶ。ここでは、ライフステージ別の公衆衛生看護活動の実際について理解する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフステージ別の特徴と健康課題について理解する。</li> <li>2. 対象別の保健医療福祉制度の活用方法を理解する。</li> <li>3. 対象に合わせた効果的な公衆衛生看護活動の展開を考察できる。</li> </ol>				
授 業 の 概 要	<p>ライフステージ別の活動として、成人保健、高齢者と介護予防活動、難病保健活動について、その法的根拠や活動実践を学び、保健師として具体的な活動を展開するための基本的な能力を養う。</p> <p>講義と演習を組み合わせながら進め、理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 成人保健活動の変遷</li> <li>2 成人保健の動向と健康課題</li> <li>3 健康日本 21（第2次）</li> <li>4 データヘルス計画について</li> <li>5 特定健康診査</li> <li>6 特定保健指導</li> <li>7 健康増進事業</li> <li>8 がん対策</li> <li>9 演習：個別を対象とした成人保健指導</li> <li>10 演習：集団を対象とした成人保健指導</li> <li>11 高齢者保健施策の変遷</li> <li>12 高齢者保健活動について</li> <li>13 高齢者の現状の理解（元気高齢者）</li> <li>14 高齢者の現状の理解（虚弱高齢者）</li> <li>15 高齢者保健に関する制度</li> <li>16 介護保険制度と保健活動</li> <li>17 地域包括支援センターの役割</li> <li>18 介護予防活動とその制度</li> <li>19～20 演習：高齢者保健指導</li> <li>21～22 演習：名寄市内の高齢者関係施設の見学</li> <li>23 難病対策の変遷</li> <li>24 現在の難病対策</li> <li>25 高度経済成長期の公害・薬害</li> <li>26 難病患者と家族が抱える課題</li> <li>27 難病患者に対する社会の取り組み</li> <li>28 保健師と難病保健活動</li> <li>29～30 演習：難病保健指導</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	遅刻・欠席をする場合は必ず連絡をすること。				
学 生 に 対 す る 価	試験 100 点により評価する。レポート等の提出物を求める場合は評価に含める。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	保健師業務要覧第 3 版 日本看護協会出版会 公衆衛生看護活動 I 医歯薬出版株式会社				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	公衆衛生看護学原論 医歯薬出版株式会社				

科 目 名	対象別保健指導論Ⅱ				
担 当 教 員 名	播本 雅津子・糸田 尚史・作並 亜紀子				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保健師：必修
学 習 到 達 目 標	対象別保健指導論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康問題にアプローチする手法を学ぶ。ここではライフステージ別の活動として、母子・父子保健、小児保健、思春期保健について、その法的根拠や活動実践を学び、看護職とくに保健師として具体的な活動を展開するための基本的な能力を養う。				
授 業 の 概 要	講義と演習を組み合わせながら進める。理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。				
授 業 の 計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 母子保健施策の変遷</li> <li>2 母子保健施策の体系</li> <li>3 妊娠期の保健指導</li> <li>4 乳幼児の発達支援</li> <li>5 乳幼児期の予防接種</li> <li>6 新生児・乳幼児訪問</li> <li>7 乳児健康診査</li> <li>8 幼児健康診査</li> <li>9～10 演習：新生児訪問</li> <li>11～12 演習乳幼児健康診査</li> <li>13 母子保健包括支援</li> <li>14 児童虐待について</li> <li>15 児童虐待の早期発見</li> <li>16 児童虐待予防活動</li> <li>17 近年の母子保健の課題</li> <li>18～19 母子保健活動と関係法令</li> <li>20 こどもの発達支援</li> <li>21 発達障害とその理解</li> <li>22 こどもの発達相談</li> <li>23 発達検査について</li> <li>24 家族支援について</li> <li>25 演習：事例検討会</li> <li>26～27 演習：発達相談の実際</li> <li>28～29 演習：発達支援の実際</li> <li>30 まとめ</li> </ul>				
授 業 の 留 意 点	遅刻・欠席をする場合は必ず連絡をすること。				
学 生 に 対 す る 価 評	試験 100 点により評価する。レポート等の提出物を求める場合は評価に含める。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	公衆衛生看護活動Ⅰ 医歯薬出版株式会社 保健師業務要覧 第3版 日本看護協会出版会 陳省仁・古塚孝・中島常安編 子育ての発達心理学 同文書院				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					

科 目 名	対象別保健指導論Ⅲ				
担 当 教 員 名	播本 雅津子				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保健師：必修
学 習 到 達 目 標	<p>対象別保健指導論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康問題にアプローチする手法を学ぶ。ここでは、健康障害の種別ごとの公衆衛生看護活動の実際について理解する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康障害の種別ごとの特徴と健康課題について理解する。</li> <li>2. 対象別の保健医療福祉制度の活用方法を理解する。</li> <li>3. 対象に合わせた効果的な公衆衛生看護活動の展開を考察できる。</li> </ol>				
授 業 の 概 要	<p>健康障害の種別ごとの活動として、精神保健福祉、感染症予防、健康危機管理、災害時の保健師活動について、その法的根拠や活動実践を学び、保健師として具体的な活動を展開するための基本的な能力を養います。</p> <p>講義と演習を組み合わせながら進め、理論の習得と同時に実践技術の習得を目指します。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域精神保健活動の歴史</li> <li>2 保健師による地域精神保健活動</li> <li>3 地域保健での自殺予防対策について</li> <li>4 ゲートキーパーについて</li> <li>5 触法精神障がい者への支援</li> <li>6 睡眠と健康</li> <li>7 睡眠保健指導について</li> <li>8 感染症保険の動向</li> <li>9 感染症保健施策と保健師活動</li> <li>10 結核の基本知識</li> <li>11 結核に対する保健師活動</li> <li>12 結核集団感染発生時の保健活動</li> <li>13 HIV/AIDS の動向</li> <li>14 HIV/AIDS に対する保健師活動</li> <li>15 新興感染症について</li> <li>16 感染症蔓延対策</li> <li>17 集団施設における感染症対策</li> <li>18 O-157 の基礎知識</li> <li>19 大規模食中毒発生時の保健活動</li> <li>20 健康危機管理とは</li> <li>21 保健所における健康危機管理業務</li> <li>22 災害時の健康危機管理</li> <li>23 災害時の公衆衛生看護活動</li> <li>24 災害時の保健師活動</li> <li>25 災害時に起こりやすい健康課題とその予防</li> <li>26 近年の災害から学ぶこと</li> <li>27～28 災害時保健活動の実際</li> <li>29～30 まとめ</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	遅刻・欠席をする場合は必ず連絡をすること。				
学 生 に 対 す る 価	試験 100 点により評価する。レポート等の提出物を求める場合は評価に含める。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	公衆衛生看護活動Ⅰ 医歯薬出版株式会社				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					

科目名	対象別保健指導論Ⅳ				
担当教員名	井上 靖子・佐藤 朱美・播本 雅津子				
学年配当	4年	単位数	2単位	開講形態	演習
開講時期	通年	必修選択	選択	資格要件	保健師：必修
学習到達目標	<p>&lt;授業目標&gt; 対象別保健指導論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康問題にアプローチする手法を学ぶ。ここでは特徴的な活動の場である、産業保健、学校保健について、その法的根拠や活動実践を学び、看護職とくに保健師として具体的な活動について理解する。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 1. 産業保健・学校保健の基本的な概要について理解する。 2. 労働者の特徴と健康課題および産業保健師活動について理解する。 3. 児童・生徒の特徴と健康課題について理解する。 4. 学校保健における養護教諭の</p>				
授業の概要	講義と演習を組み合わせながら進める。理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校保健の概要</li> <li>2 養護教諭の職務</li> <li>3 学校の目的・教育職の役割</li> <li>4 学校保健に関する法体系</li> <li>5 学童期・思春期における発達課題と健康</li> <li>6 発達障害における課題と教育支援</li> <li>7 学校保健計画と保健室経営</li> <li>8 疾患をもつ児童・生徒の健康管理</li> <li>9 児童虐待の早期発見と学校における取り組み</li> <li>10 児童・生徒の健康管理（健康相談）</li> <li>11 児童・生徒の健康管理（健康診断）</li> <li>12 感染症と学校保健</li> <li>13 自治体保健師と学校保健の関わり</li> <li>14 産業保健の役割と意義</li> <li>15 産業保健の歴史</li> <li>16 産業保健行政</li> <li>17 労働安全衛生法</li> <li>18 社会における労働と健康</li> <li>19 労働衛生統計</li> <li>20 産業保健の組織的展開</li> <li>21 労働環境対策</li> <li>22 産業保健におけるメンタルヘルス対策</li> <li>23 ストレスチェックと保健活動</li> <li>24 労働安全衛生マネジメント</li> <li>25 安全衛生計画・産業保健計画の策定</li> <li>26 特殊健康診査</li> <li>27 特定健康診査・特定保健指導</li> <li>28 外国人労働者の健康課題</li> <li>29～30 まとめ</li> </ol>				
授業の留意点	遅刻・欠席をする場合は必ず連絡をすること。				
学生に対する評価	試験 100 点により評価する。レポート等の提出物を求める場合は評価に含める。				
教科書（購入必須）	公衆衛生看護活動Ⅱ 医歯薬出版株式会社				
参考書（購入任意）	学校保健概論 光生館				

科 目 名	継続訪問実習				
担 当 教 員 名	播本 雅津子 他				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保健師：必修
学 習 到 達 目 標	家庭訪問は保健師の地区活動の重要な手段の1つであり保健師活動の基本となる活動である。個人・家族の健康課題の解決に向けて、家庭訪問の一連の過程を複数の事例へ実施することを目標とする。また公衆衛生看護学実習と連動し継続的な訪問活動の展開および単独訪問の実施を目標とする。				
授 業 の 概 要	臨地において指導保健師より事例の紹介を受け、指導保健師同行訪問、学生ペア訪問、単独訪問等段階を踏んで家庭訪問を実施する。家庭訪問実施に必要な情報の整理、事例の事前情報アセスメント、訪問場面での情報収集およびアセスメント、事例に応じた支援の展開等、家庭訪問に関する一連の流れを体験する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 同行訪問</li> <li>3 学生ペア訪問</li> <li>4 学生単独訪問</li> <li>5 事例検討会</li> <li>6 カンファレンス</li> </ol>				
授 業 の 留 意 点	健康管理に留意して実習に望むこと。実習は実習要綱に基づいて実施するため、準備段階から実習要綱をよく参照すること。公衆衛生看護学実習と連動した実習となるため、双方の実習に向けての準備を計画的に行うこと。				
学 生 に 対 す る 価 評	評価表に基づき、指導者および教員により評価を行う。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )	使用しない				
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					

科 目 名	公衆衛生看護学実習				
担 当 教 員 名	播本 雅津子 他				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	3 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	保健師：必修
学 習 到 達 目 標	<p>この実習は、保健所および市町村において、保健師活動に関する実習を実施する。地域診断、健康教育、健康相談、地区組織活動を通じて、地域看護管理、個人・家族に対する活動、集団・組織・地域に対する活動を学ぶ。</p> <p>(実習目的) 保健所および市町村の保健師活動について理解を深め、公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。</p> <p>(実習目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健所の担う公衆衛生活動および保健所保健師の役割を理解する。</li> <li>2. 地域の人々の健康の保持・増進を図るための保健師活動を理解する。</li> <li>3. 地域の健康問題を組織的に解決する方法を理解する。</li> </ol>				
授 業 の 概 要	保健所および市町村にて臨地実習を行い、継続訪問実習と連動して行う。地域診断、健康教育、健康相談、地区組織活動、地域看護管理活動等、集団・組織・地域に対する活動を学ぶ。1グループあたり、保健所は7～8人、市町村は2～4人を目安とする。				
授 業 の 計 画	<p>保健所実習 事前学習：保健所管内に関する地区把握を実施する。保健所の設置および保健所が所管する業務について、法的根拠について学習する。</p> <p>実習中：保健所保健師が実施する公衆衛生看護活動について、実際の業務を通じて学習する。</p> <p>事後学習：地区把握に基づき地域診断を行う。市町村実習と合わせて事後レポートを作成する。</p> <p>市町村実習 事前学習：実習地域に関する地区把握を実施する。実習地域の健康問題について事前学習を行う。</p> <p>実習中：地区踏査を実施し、地域診断を行う。保健業務を見学し、保健指導を実施する。地域の健康問題に対して、健康教育を実施する。</p> <p>地域ケアシステムの実際について体験する。保健師活動の実際を通じて、市町村における公衆衛生看護活動を理解する。</p> <p>事後学習：地域診断資料を作成する。保健所実習と合わせて事後レポートを作成する。</p>				
授 業 の 留 意 点	健康管理に留意して実習に望むこと。実習は実習要綱に基づいて実施するため、準備段階から実習要綱をよく参照すること。継続訪問実習と連動した実習となるため、双方の実習に向けての準備を計画的に行うこと。				
学 生 に 対 す る 価 評	評価表に基づき、指導者および教員により評価を行う。 実習要項参照。				
教 科 書 ( 購 入 必 須 )					
参 考 書 ( 購 入 任 意 )					